Victor
"HIS MASTER'S VOICE"

取扱説明書

目次

はじめに

準備

操作

お手入れ

その他

D-ILA®

ホームシアタープロジェクター

型名 **DLA-HD10K**
DLA-HD10KS

お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、後日調べたいときのために
保証書と一緒に大切に保存してください。

LCT1969-001A

安全上のご注意

「安全上のご注意」の絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵（マーク）が表示されています。
これらは、あなたや他の人々への危害や、財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解して本文をお読みください。

この絵表示（文字含む）は、そこに書かれていることを無視すると、死亡したり重傷を負うことが想定される内容です。十分注意してください。

この絵表示（文字含む）は、そこに書かれていることを無視すると、傷害を負ったり、物的損害が想定される内容です。十分注意してください。

絵表示の説明

■注意（警告を含む）が必要なことを示す記号

一般的注意

指をはさまれないよう注意

高温注意

感電注意

破裂注意

■してはいけない行為（禁止行為）を示す記号

禁止

水場での使用禁止

ぬれ手禁止

分解禁止

接触禁止

水ぬれ禁止

■必ずしてほしい行為（強制・指示行為）を示す記号

電源プラグを抜く

一般的指示

アース線をつなぐ

警告

万一、次のような異常が発生したときは

- 煙が出ている、へんなにおいがするなどの異常のとき。
- 画面が映らないなどの故障のとき。
- ランプが破裂したとき。
- プロジェクターの内部に水や物が入ってしまったとき。
- プロジェクターを落としたり、キャビネットが破損したとき。
- 電源コードが傷んだとき（芯線の露出、断線など）。
- ファンがはたらかないとき。

このようなときは、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、（煙などが出ていたときは、それが出なくなったことを確かめてから）販売店に修理を依頼してください。
そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
なお、お客様ご自身が修理することは危険です。絶対にやめてください。

一般的注意

電源プラグを抜く

転倒・落下防止の処置をしてください

地震など非常時の安全確保と、事故を防止するために、落下や転倒を防止する処置をしてください。落ちたり、倒れたりして、けがをする原因となります。
詳しくは販売店にご相談ください。

一般的注意

⚠警告　設置するときの警告

■不安定な場所に置かない

ぐらついている台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする原因となります。

禁止

■プロジェクターの荷重に耐えられない場所には設置しない

プロジェクターの荷重に耐えられない場所には設置しないでください。設置場所の強度が弱いと、落ちたり、倒れたりして、けがをする原因となります。

禁止

■振動する場所への天吊り設置はしない

振動によりプロジェクター本体の取付部分が破損し、落ちたり、倒れたりして、けがをする原因となります。

禁止

■壁や他の機器と間隔をあけて設置する

排気口から温風として排気される内部熱が遮断されたり、他の機器からの排気熱が本機に入り込むなどして内部に熱がこもり、火災の原因となります。
また、排気口からは温風が出ますので、やけどや他の機器への損害を与える原因となります。

一般的指示

禁止

■専門の知識や技術のないかたは設置工事をしない

専門の知識や技術が必要です。設置工事（天井などへの取り付け）は必ず販売店（専門の技術者）にご依頼ください。専門の知識や技術のないかたが行うと、けがや感電をする原因となります。

禁止

■指定の電源電圧（交流 100 V）以外で使用しない

表示された電源電圧以外では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

禁止

■プロジェクターの通風孔（排気口・吸気口）をふさがない

通風孔（排気口・吸気口）をふさぐと、内部の熱が逃げませんので、火災の原因となります。次のことにご注意ください。

- 押し入れ、本箱など狭いところに入れない
- じゅうたんや布団などの上に置かない
- テーブルクロスなどを掛けない

禁止

⚠注意　設置するときの注意

■次のような場所に置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多いところ
- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気があたるところ
- 熱器具の近くや暖房の吹き出し口の近く

また、直射日光の当たるところに置くと、キャビネットが変質することがあります。

禁止

■機器との接続がすべて終わってから電源プラグをつなぐ

コンセントに差したまま接続したりすると、感電の原因となることがあります。また、プロジェクターの電源コードはプロジェクター本体につないでから、壁のコンセントに差してください。

一般的指示

一般的注意

■安全アースを接続する

安全アースを接続しないと感電の原因となることがあります。電源プラグから出ている緑色のアースリード線を建物に備えられているアース端子につないでください。
アース線の接続は必ず電源プラグをコンセントに行なってください。また、アース線の接続をはずす場合は、必ず電源プラグをコンセントからはずして行なってください。

アース線をつなぐ

■キャスター付きの台に載せるときは、キャスターを固定する

キャスターをロックして動かないようにしてください。動いたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

一般的指示

一般的注意

■電源コードを抜くときは壁側のコンセントから抜く

壁側のコンセントから抜かないと感電の原因となることがあります。
電源コードは壁側のコンセントから先に抜き、そして、プロジェクター本体側の順で抜きます。また、抜くときは必ずプラグをもって抜いてください。

電源プラグを抜く

■移動するときは接続コード類をはずす

コードを傷つけますので、電源プラグをコンセントから抜き、接続コードなどをはずしてください。コードに傷がつくと、火災・感電の原因となることがあります。
また、プロジェクターを運ぶときは、バランスに気を付けて、衝撃を与えないようにしてください。けがや故障の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

⚠警告　使用するときの警告

■引火·爆発の恐れのある場所では使用しない

禁止

プロパンガス、ガソリンなど引火性ガスや粉塵が発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

■プロジェクター内部に物を入れない

禁止

金属や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。金属類や燃えやすいものなどが入ると、火災・感電の原因となります。特に小さいお子様には注意してください。

■プロジェクターに水をかけない

水場での使用禁止

水ぬれ禁止

公衆浴場、温泉、風呂場などでは使用しないでください。水が入ったり、ぬれたりしないようにしてください。火災・感電の原因となります。
水などの入った容器（花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など）は、こぼれたりしますので、プロジェクターの上に置かないでください。
また、雨天、降雪中、海岸、水辺で使用するときは特にご注意ください。

■投写レンズをのぞかない

禁止

ご使用中（ランプ点灯中）は投写レンズを絶対にのぞかないでください。強い光が目にあたると視力障害の原因となります。特に小さいお子様には注意してください。

■吸気口・排気口をふさがない

禁止

破裂注意

光源ランプを冷却するためにファンで空気を取り込み、排気しています。吸気口·排気口をふさいだり、紙、布、柔らかいクッションなどを置かないでください。内部に熱がこもり、火災や故障の原因となります。また、光源ランプが冷却されないと、ランプが破裂し、火災・故障・けがの原因となります。

■途中でランプ使用時間をリセットしない

禁止

破裂注意

新しいランプに交換したときのみ、ランプ使用時間をリセットしてください。使用途中でリセットすると寿命を越えて使用することとなり、ランプの性能が著しく低下し、破裂して火災・けがの原因となります。

■電源コードは付属品を使用する

一般的指示

付属品以外のコードを使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源プラグやコンセントにほこりや金属が付着したまま使用しない

禁止

一般的指示

ショートや発熱により、火災・感電の原因となります。半年に一度はプラグを抜いて乾いた布でふいてください。

■電源コードを傷つけない

禁止

電源コードの上に重いものをのせたり、電源コードを加工したり・無理に曲げたり・ねじったり・引っ張ったり、電源コードを熱器具に近づけたりしないでください。電源コードを傷つけると、火災・感電の原因となります。
電源コードが切れたり、芯線が出たりしたときは、販売店に電源コードの交換を依頼してください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■付属の電源コードを他の機器に使用しない

一般的指示

本機に付属されている電源コードを他の機器に使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

■プロジェクターのキャビネットやカバーははずさない

感電注意

プロジェクター内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検、修理は販売店に依頼してください。

■プロジェクターを改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。

■雷が鳴り出したら、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

⚠注意　使用するときの注意

■**プロジェクターの上に物を置かない**

禁止

重いものやプロジェクター本体からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

■**高温部には触れない**

接触禁止

高温注意

投写中は排気口（ランプカバー部分）や、その周辺部には触れないでください。高温になりますので、やけどの原因となることがあります。

■**プロジェクターの上に乗らない、ぶら下がらない**

禁止

倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。特に小さいお子様には注意してください。

■**電源プラグはコンセントの根元まで確実に差し込む**

一般的指示

ショートや発熱により、火災や感電の原因となることがあります。

■**根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しない**

禁止

発熱して、火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

■**電源プラグはコードの部分を持って抜かない**

禁止

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災・感電の原因となることがあります。プラグの部分を持って抜いてください。

■**ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない**

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

■**プロジェクターをご使用になるときは、必ずレンズキャップをはずしてから使用する**

一般的指示

熱によりキャップが変形したり本機が故障する場合があります。

■**長期間プロジェクターを使用しないときは、電源プラグを抜く**

電源プラグを抜く

安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

■**お手入れをするときは電源コード（電源プラグ）を抜く**

電源プラグを抜く

安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。感電の原因となることがあります。

■**乾電池の使い方に注意する**

禁止

一般的注意

乾電池は間違った使い方をすると、破裂したり液がもれて、火災・けが・故障・周囲の汚損の原因となることがあります。次のことにご注意ください。
もし液がもれた場合は電池ケースについた液をよく拭き取ってください。万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

- 新しい電池と古い電池を混ぜて使わない
- 種類の違う電池を混ぜて使わない
- 電池ケースのプラス（＋）とマイナス（－）の表示どおりに入れる
- 指定された電池以外は使わない
- 電池（電池ケース）のプラス（＋）とマイナス（－）をショートさせない
- 加熱したり、分解したり、火や水の中に入れない
- 長時間使用しないときは、電池を取り出しておく

電池を廃棄するときは、その地域の回収ルールに従ってください。

■**プロジェクター内部の掃除を販売店に依頼する**

一般的注意

プロジェクターの内部にホコリがたまったまま使用すると、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。
掃除が必要になる頻度は、使用時間や使用環境によって変わります。お買い上げの販売店、またはお近くのビクターサービス窓口にご相談ください。

⚠警告　　ランプ交換時の警告

■プロジェクターを使用した直後はランプを交換しない

ランプ（ランプユニット）を交換するときは必ず 1 時間以上の冷却時間をおいてください。使用直後はランプが高温になっており、やけどの原因となります。

禁止

高温注意

■ランプを交換するときは電源プラグをコンセントから抜く

ランプ（ランプユニット）を交換するときはSTAND BY インジケーターが点灯している状態で電源プラグをコンセントから抜いてください。電源プラグを差し込んだまま作業すると、けがや感電の原因となります。

電源プラグを抜く

■ランプに衝撃を加えたり、傷つけたりしない

ランプ（ランプユニット）は落下させたり、衝撃を加えたり、傷つけたりして使用すると、破裂して、けがをする原因となります。傷ついたランプは絶対に使用しないでください。また、ランプが破裂したときは、販売店に修理を依頼してください。破裂したランプの破片などで、けがをする原因となります。

禁止

一般的注意

⚠注意　　ランプ交換時の注意

■新しいランプのガラス面は絶対に素手でさわったり、汚したりしない

ランプ（ランプユニット）のガラス面や金属部分（取っ手やネジを除く）には絶対に素手でさわらないでください。手の汚れがつき、ランプの寿命が短くなったり、性能が著しく低下したり、ランプが破裂したりして、故障の原因となることがあります。

禁止

■ランプを廃棄するには

交換した古いランプ（使用済みのランプユニット）は、蛍光灯と同じ扱いで廃棄できます。分別収集している地域では、その規則に従って処理してください。誤った廃棄方法は、環境破壊の原因となることがあります。

一般的指示

使用上のご注意

素子の焼き付きについて

■同じ静止画像を長時間映したり、異常に明るい画像は映さない

高輝度な画面や高コントラストな画面を持つ静止映像などを、長い時間映さないでください。素子に画像が焼き付くことがあります。

特にビデオゲームやコンピュータープログラム画面などの画像には注意してください。
通常のビデオ再生映像などの動画では問題ありません。

見る場所(部屋の明るさ)について

■部屋の明るさは

直射日光や照明がスクリーン画面に直接あたらないように、カーテンなどでさえぎってください。部屋の明るさは、暗くすることにより、より良い映像でご覧いただけます。

■連続して長時間、画面を見ない

連続して長い時間、画面を見ることは目を疲れさせますのでよくありません。ときどき目を休めてください。

■設置状況や環境によって画像が揺れるときは

使用しないでください。視力低下の原因となります。

使用環境について

■たばこの煙や油煙のある室内で使用しない

たばこの煙や油煙のある室内で使用しないでください。故障の原因となります。

■天井に吊り下げて使用するときは

本機周辺の温度を確認してください。
暖房を使用した場合、天井付近は予想以上に高温となり、故障の原因となります。

お手入れのしかた

■キャビネットの汚れは

柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布でからぶきしてください。

■キャビネットが変質したり、傷ついたり、塗料がはげることがありますので、次のことに注意してください。

- 堅い布でふかない
- 強くふかない
- シンナーやベンジンでふかない
- 殺虫剤など揮発性のものをかけない
- ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしない

■レンズの汚れは

市販のブロワーやレンズクリーニングペーパー（メガネやカメラなどの清掃用）で行なってください。

液状のクリーニング剤は使用しないでください。表面のコーティング膜がはがれる原因となることがあります。

レンズ表面は傷つきやすいので強くこすったり、たたいたりしないでください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に接近して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

部品の交換目安時間について

本製品には、製品の機能を維持するために交換が必要な部品（光学部品、冷却用ファン、フィルターなど）が含まれています。部品の交換目安時間は、ご使用になる頻度や環境により大きく変わります。交換（フィルターを除く）につきましては、お近くのビクターサービス窓口にご相談ください。

付属品／別売品について

付属品を確認する

本機には次の付属品が梱包されています。付属品をご確認ください。
万一、不足しているものがございましたら、お手数でもお買い上げの販売店にご連絡ください。

品名	数量
取扱説明書	× 1 冊
サービス窓口案内	× 1 枚
保証書	× 1 冊
電源コード	× 1 本
リモコン (RM-MH10K)	× 1 個
単４乾電池（動作確認用）	× 2 個

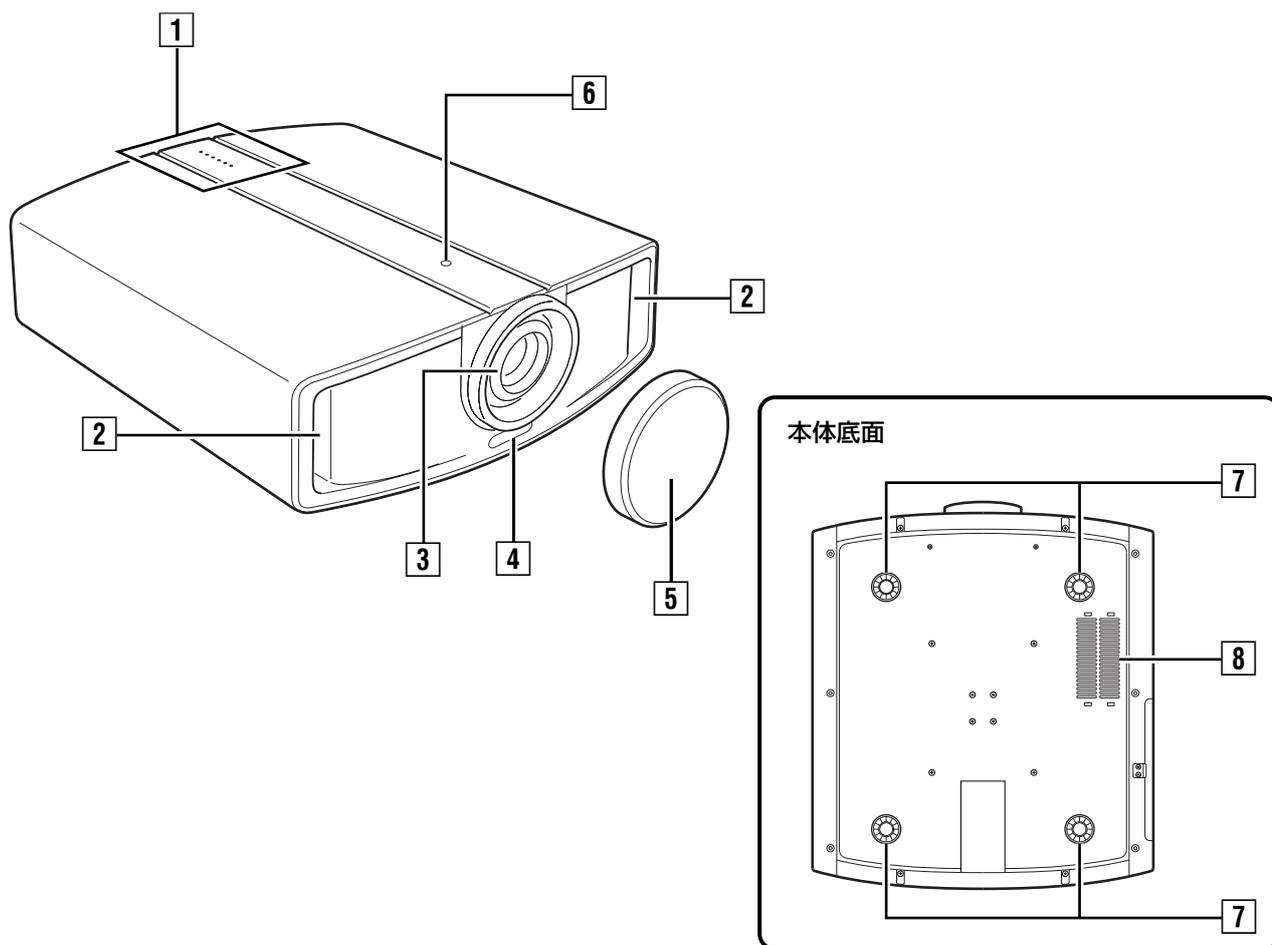
別売品について

詳しくは、お買い上げの販売店またはビクターサービス窓口にお問い合わせください。

■交換ランプ　：BHL5008-S（ランプユニット）

■交換フィルター：LC32058-002A（インナーフィルター）

各部のなまえとはたらき

本体ー前面・上面・底面

1 インジケーター

詳しくは『本体ーインジケーター』(☞12ページ)をご覧ください。

2 吸気口(前面の 2 箇所・底面)

内部を冷却するための空気を取り込んでいます。ふさいだり、温風を吹き付けたりしないでください。故障の原因になります。

3 電動ズームレンズ

DLA-HD10K　：1.9倍電動ズームレンズ
DLA-HD10KS ：1.4倍電動ズームレンズ

- 投写するときは、レンズキャップをはずしてください。(☞24ページ)

4 リモコン受光部(前面)

リモコンで操作するときは、リモコンをここに向けて操作します。(☞21ページ)

- 受光部は背面にもあります。

5 レンズキャップ

- 本機を使用しないときは、レンズの汚れ防止のためキャップを付けておいてください。(☞24ページ)

6 レンズシフトカバー

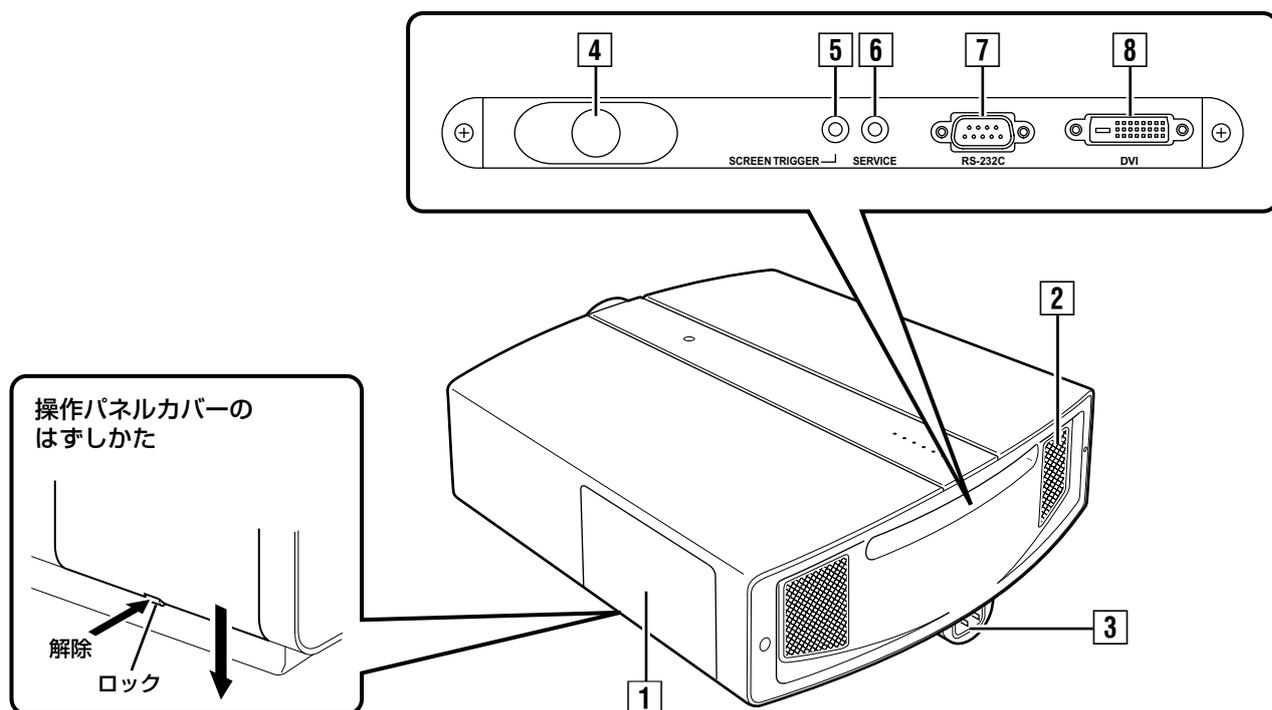
投写画面位置を上下方向に動かすレンズシフト機能を使用するときに、はずします。(☞20ページ)

7 フット

出荷時には最も縮めた位置になっています。本機の傾きを調整する機能はありません。

8 フィルター

吸気口から入る空気中のゴミを取り除いています。このフィルターは定期的に清掃してください。(☞37ページ)

本体ー背面・右側面

1 操作パネルカバー

本機を操作するときや、ランプユニットを交換するときに、カバーをはずします。

- カバーのロックを解除し、カバーを下にスライドさせるとはずれます。
- 操作パネルについては11ページをご覧ください。

操作パネルカバー取扱上の注意

注意

- 本体と操作パネルカバーとの隙間が狭くなっています。本体と操作パネルカバーとの隙間に指などを挟まないように注意してください。
- 部品の突起や角でけがをしないように注意してください。
- 操作パネルカバーを本体に取り付けたあと、ロックが掛かっていることを確認してください。操作パネルカバーが落下してけがの原因となります。

2 排気口

セット内部を冷却した温風を排気しています。排気口はふさがないでください。故障の原因になります。

3 電源入力端子

電源入力端子です。付属の電源コードを接続します。(☞23ページ)

4 リモコン受光部(背面)

リモコンで操作するときは、リモコンをここに向けて操作します。(☞21ページ)

- 受光部は前面にもあります。

5 SCREEN TRIGGER(スクリーントリガー)端子

スクリーントリガー対応の昇降式スクリーンを制御します。電源が入っているときにＤＣ+12 V/最大100 mAを出力します。

- スクリーンとの接続は、設置業者にご相談ください。

6 [SERVICE](サービス)端子

サービス用の端子ですので、使用しないでください。動作不良や故障の原因となります。

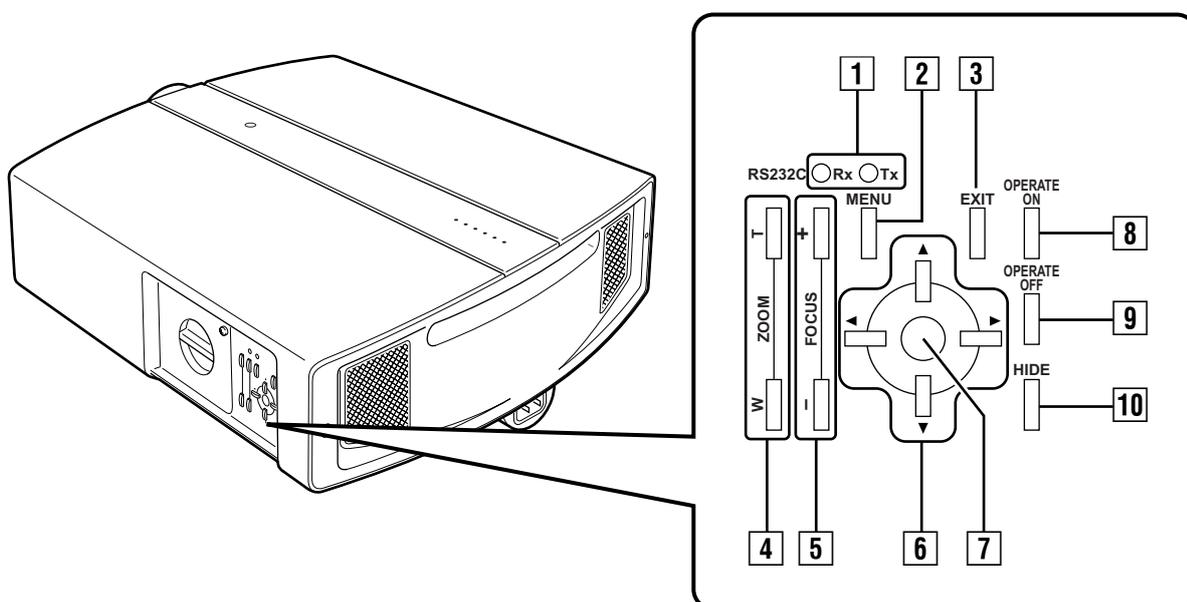
7 [RS-232C] 端子(D-sub 9 ピン)

RS-232Cインターフェース規格の端子です。外部にパーソナルコンピューターを接続して、本機をコントロールすることができます。(☞22、43ページ)

- 詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

8 [DVI] 端子(DVI-D 24 ピン)

映像信号の入力端子です。入力可能な映像信号は1080/50p、1080/60p信号です。
(☞22ページ)

本体ー操作パネル

1 [Rx/Tx] インジケーター

RS-232C端子を使って、コンピューターと通信しているときに点灯します。(☞13ページ)

[Rx]：本機が RS-232C のデータを受信しているときに点灯。

[Tx]：本機が RS-232C のデータを送信しているときに点灯。

2 [MENU]（メニュー）ボタン

メニューを表示するときに押します。メニューが表示されているときに押すとメニューが消えます。(☞27、28ページ)

3 [EXIT]（エグジット）ボタン

ひとつ前の階層メニューに戻るときに押します（例えば、サブメニューからメインメニューに戻るとき)。また、メインメニューを表示しているときに押すと、メニューを消すことができます。(☞27、28ページ)

4 [ZOOM T/W]（ズーム T/W）ボタン

投写映像のサイズを変更するときに押します。(☞24ページ)

5 [FOCUS +/–]（フォーカス +/ ー）ボタン

投写映像の焦点を調整するときに押します。(☞25ページ)

6 カーソル [▲ / ▼ / ◀ / ▶] ボタン

メニュー項目の設定をするときに使います。(☞27、28ページ)

7 [ENTER]（エンター）ボタン

次の階層メニューに入るときに押します（例えば、メインメニューからサブメニューに入るとき）。また、メニュー画面の項目で「ENTER」選択指示の表示がされているときに押します。(☞27、28ページ)

8 [OPERATE ON]（オペレートオン）ボタン

本機がスタンバイモードのとき1秒以上押すと、本機の電源が入り、[OPERATE] インジケーターが点灯します。(☞24ページ)

9 [OPERATE OFF]（オペレートオフ）ボタン

本機が動作（投写）しているとき1秒以上押すと、クールダウンモードになり、約60秒後に自動的にスタンバイモードになります。(☞25ページ)

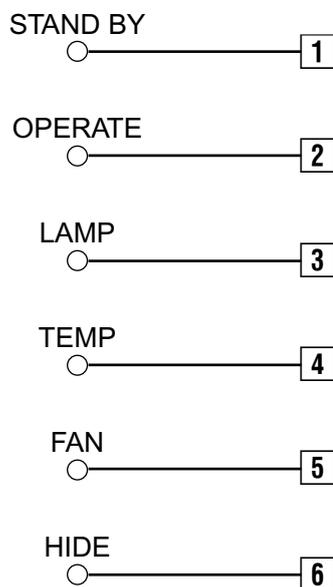
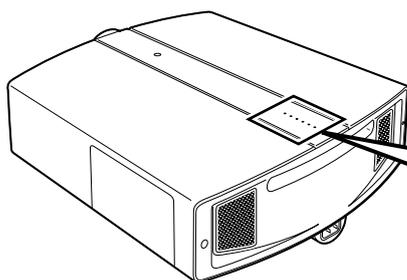
- 光源ランプ点灯後の約1分間、[OPERATE OFF] ボタンは働きません。1分以上経過してから操作してください。

10 [HIDE]（ハイド）ボタン

映像を一時的に消すときに使います。もう一度押すと映像が再び出ます。(☞25ページ)

準備

本体ーインジケーター

1 [STAND BY]（スタンバイ）インジケーター

点灯：スタンバイモードのとき。
(☞13、24ページ)

点滅：クールダウンモードのとき。
(☞13、25ページ)

2 [OPERATE]（オペレート）インジケーター

点灯：本機が動作（投写）状態のとき。
(☞13、24ページ)

3 [LAMP]（ランプ）ボタン

点灯：ランプ交換が近くなったときや、ランプ交換のとき。(☞13ページ)
ランプカバーがはずれているとき。
(☞39ページ)
ランプが点灯せずに投写できなかったときや、投写中にランプが消灯したとき。
(☞39ページ)

4 [TEMP]（テンプ）インジケーター

点灯：本機内部の温度が異常に高くなったとき。
(☞39ページ)

点滅：ランプ交換が近くなったときやランプ交換のとき。(☞13ページ)
本機に異常があったとき。(☞39ページ)

5 [FAN]（ファン）インジケーター

点灯：内部のファンが異常停止したとき。
(☞39ページ)

点滅：ランプ寿命、ランプ交換のとき。
(☞13ページ)
本機に異常があったとき。(☞39ページ)

6 [HIDE]（ハイド）インジケーター

点灯：投写中に[HIDE]ボタンを押して、映像を一時的に消したとき。(☞13、25ページ)

点滅：本機に異常があったとき。(☞39ページ)

本体のインジケーター表示について

本機の動作状態をインジケーターの組み合わせで表示します。

- *2 の警告表示の説明については、33 ページもご覧ください。
- 本機の異常時の表示については、39 ページをご覧ください。

本体上面のインジケーター表示

インジケーター						表示の内容
STAND BY	OPERATE	LAMP	TEMP	FAN	HIDE	
点灯	—	—	—	—	—	スタンバイモードのとき
—	点灯	—	—	—	—	オペレートモード（投写状態）のとき
—	点灯	—	—	—	点灯	映像を投写中、[HIDE] ボタンを押して映像を一時的に消したとき
点滅	—	—	—	—	—	*1 クールダウンモード中 （ランプの冷却中）
—	—	点灯	点滅	—	—	*2 ランプ交換が近くなったとき （ランプ使用時間が1900時間を超えたとき）
—	—	点灯	—	点滅	—	*2 ランプ寿命になったとき （ランプ使用時間が2000時間を超えたとき）
—	—	点灯	点滅	点滅	—	*2 強制的にクールダウンモードになったとき ランプ交換のとき （ランプ使用時間が2010時間を超えたとき）

操作パネル部のインジケーター表示

インジケーター		表示の内容
Rx	Tx	
点灯	—	本機が RS-232C のデータを受信しているとき
—	点灯	本機が RS-232C のデータを送信しているとき

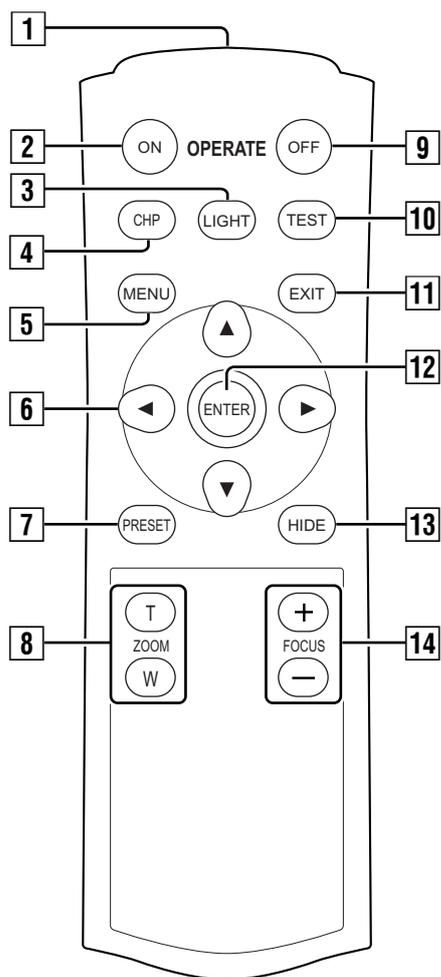
***1 クールダウンモードについて**

クールダウンモードとは、投写終了後に一定時間（約 60 秒間）、加熱したランプを冷却する状態のことです。この機能は、加熱したランプの熱で本機内部が変形、破損することを防止したり、ランプの破裂やランプの寿命が短くなることを防ぐためのものです。
クールダウンモード中は、[STAND BY]インジケーターが点滅して知らせます。また、クールダウンモード中は [OPERATE ON] ボタンを押しても働きません。

クールダウンモードが終わると、自動的にスタンバイモードになります。

お願い

クールダウンモード中は電源プラグをコンセントから抜かないでください。また、クールダウンモード中は本機を立てたり横にしたりして吸気口・排気口をふさがないでください。

準備

リモコン

1 リモコン発光部

(☞21ページ)

2 [OPERATE ON]（オペレートオン）ボタン

本機がスタンバイモードのとき1秒以上押すと、本機の電源が入り、[OPERATE] インジケーターが点灯します。(☞24ページ)

3 [LIGHT]（ライト）ボタン

リモコンボタンのイルミネーション（明かり）を約10秒間点灯します。

4 [CHP]（クロスハッチパターン）ボタン

フォーカス（焦点）調整を行うときに押します。ボタンを押すと、調整用のグリーンクロスハッチ信号を投写します。

- [EXIT] ボタンを押すと、元の映像に戻ります。

5 [MENU]（メニュー）ボタン

メニューを表示するときに押します。メニューが表示されているときに押すと、メニューが消えます。(☞27、28ページ)

6 カーソル [▲ / ▼ / ◀ / ▶] ボタン

メニュー項目の設定をするときに使います。(☞27、28ページ)

7 [PRESET]（プリセット）ボタン

サブメニューの項目を選択しているとき、その設定値を工場出荷時の値にリセットするときに使います。

8 [ZOOM T/W]（ズーム T/W）ボタン

投写映像のサイズを変更するときに押します。(☞24ページ)

9 [OPERATE OFF]（オペレートオフ）ボタン

本機が動作（投写）しているとき1秒以上押すと、クールダウンモードになり、約60秒後に自動的にスタンバイモードになります。(☞25ページ)

- 光源ランプ点灯後の約1分間、[OPERATE OFF] ボタンは働きません。1分以上経過してから操作してください。

10 [TEST]（テスト）ボタン

フォーカス（焦点）、画面サイズ、画質などを調整するときに押します。ボタンを押すと、調整用のテストパターンの映像に切り換わります。

- [TEST] ボタンで、テストパターンを変更します。
- [EXIT] ボタンを押すと、元の映像に戻ります。

11 [EXIT]（エグジット）ボタン

ひとつ前の階層メニューに戻るときに押します（例えば、サブメニューからメインメニューに戻るとき）。また、メインメニューを表示しているときに押すと、メニューを消すことができます。(☞27、28ページ)

12 [ENTER]（エンター）ボタン

次の階層メニューに入るときに押します（例えば、メインメニューからサブメニューに入るとき）。また、メニュー画面の項目で「ENTER」選択指示の表示がされているときに押します。(☞27、28ページ)

13 [HIDE]（ハイド）ボタン

映像を一時的に消すときに押します。もう1度押すと映像が表示されます。(☞25ページ)

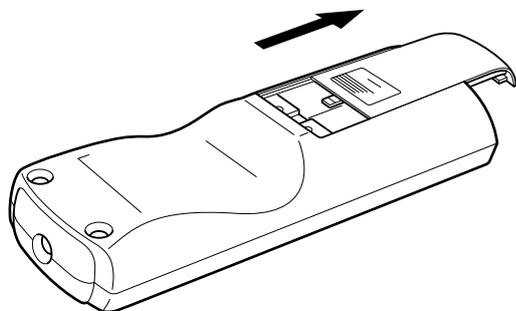
14 [FOCUS +/−]（フォーカス +/ −）ボタン

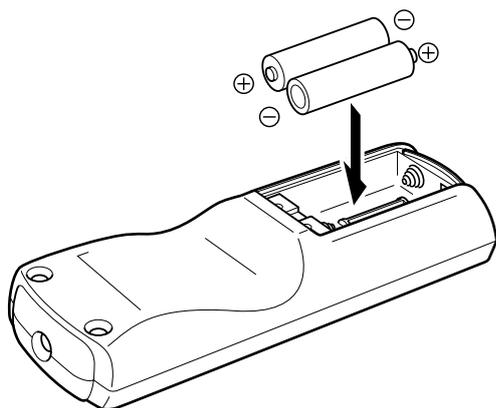
投写映像の焦点を調整するときに使います。(☞25ページ)

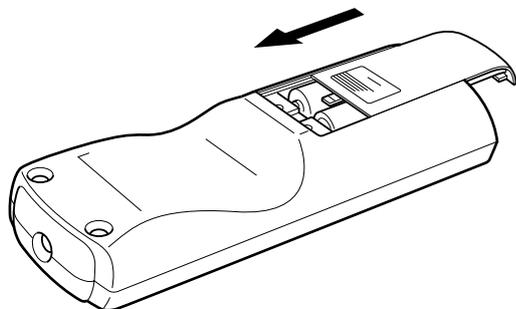
リモコンへの電池の入れかた

リモコンに乾電池を入れてください。また、リモコンが正常に働かなくなったら、新しい乾電池と交換してください。

1 裏ぶたを開けます

裏ぶたを軽く押しながら、矢印の方向にスライドさせます。

2 乾電池を入れます

付属の乾電池（単４形）２本を⊕、⊖の表示どおりに入れます。ショートを防ぐため、必ず電池の⊖（マイナス）側を先に入れてください。

3 裏ぶたを閉めます

裏ぶたを矢印の方向にスライドさせ、閉じます。

乾電池の使いかたの注意

注意

電池は間違った使いかたをすると、破裂したり液がもれて、火災・けが・故障・周囲の汚損の原因となることがあります。次のことにご注意ください。

- 新しい電池と古い電池を混ぜて使わない。
- 電池は種類によって特性が異なるので、種類の違う電池は混ぜて使わない。
- 電池ケースのプラス⊕とマイナス⊖の表示どおりに入れる。
- 電池を入れるときは、ショートを防ぐため、必ず電池のマイナス ⊖ 側を先に入れる。
- 電池を火の中へ入れたり、充電したりしない。
- 指定された電池以外は使わない。
- 長期間使用しないときには、乾電池を取りだしておく。
- 電池はできるだけマンガン電池をお使いください。充電式電池やアルカリ乾電池は使用しないでください。
- 電池に表示されている注意事項をお読みください。

電池の寿命は

電池は普通の使いかたで、約６か月から１年間使えますが、付属の電池は動作確認用ですので短くなることがあります。操作しにくくなったら、新しい乾電池に交換してください。

液漏れについて

電池が消耗して使えなくなったときは、すぐに取りだして交換してください。
そのままにしておくと液漏れの原因になったり、液漏れが故障の原因となることがあります。

準備

設置について

設置するときの注意

本機を設置するときには、次のことをよくお読みになって設置してください。

設置する環境

注意

本機は精密機器ですので、次のような場所での設置や使用はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。

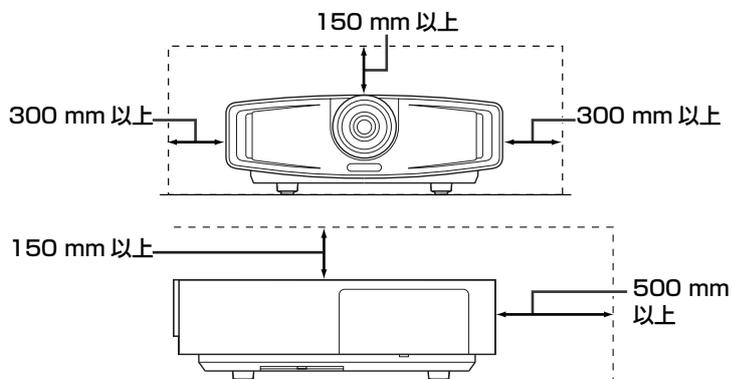
- 水や湿気、ほこりの多いところ
- 油煙やたばこの煙のあたるところ
- じゅうたんや布団などの柔らかいものの上
- 直射日光があたって高温になるところ
- 高温・低温のところ
  許容動作温度範囲：＋5 ℃ ～ ＋35 ℃
  許容動作相対湿度範囲：20 % ～ 80 %（非結露）
  許容保存温度範囲：－10 ℃ ～ ＋60 ℃
- たばこの煙や油気がある部屋に設置しない
  微量の煙や油気でも長い間に影響があります。本機は放熱のため大量の吸気により光学部の冷却を行なっています。光路に汚れが付着し映像が暗くなったり、発色が悪化するなど故障の原因となります。光学部品に付着した汚れは除去することができません。

お使いになるときの注意

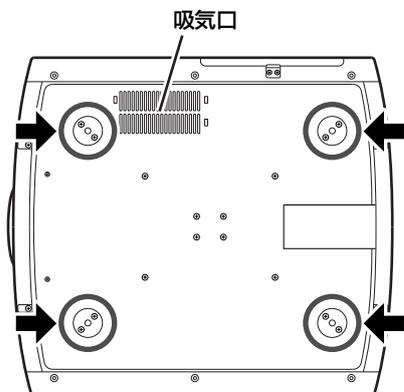
注意

本機は投写中に高温になる光源ランプを使用しています。ご使用になるときには、次のような投写はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。

- 横倒しでの投写
- むりな設置角度での投写
  本機を左右方向で ±5°、上下方向で ±25° 以上傾けてお使いになることは避けてください。色むらやランプの寿命を損ねる原因となることがあります。
- 吸気口、排気口をふさぐような場所での投写
- 空調機からの送風が当たるところでの投写

最低限必要な空間

本機を密閉したり、吸気口･排気口をふさぐような覆いやカバーを使用しないでください。また、設置のときは本機の周囲に十分なスペースを確保してください。左のような寸法で囲うときは、囲った内部が外気と同じ温度になるよう空調を行なってください。

プロジェクターの固定

プロジェクターを固定する必要があるときは、底面のフット 4 個をはずし、それらのネジ穴（M8 ナット）4ヵ所すべてを使用してプロジェクターを固定してください。その際、吸気口をふさがないように吸気口周辺に十分なスペースを確保してください。

天吊り設置についての注意

注意

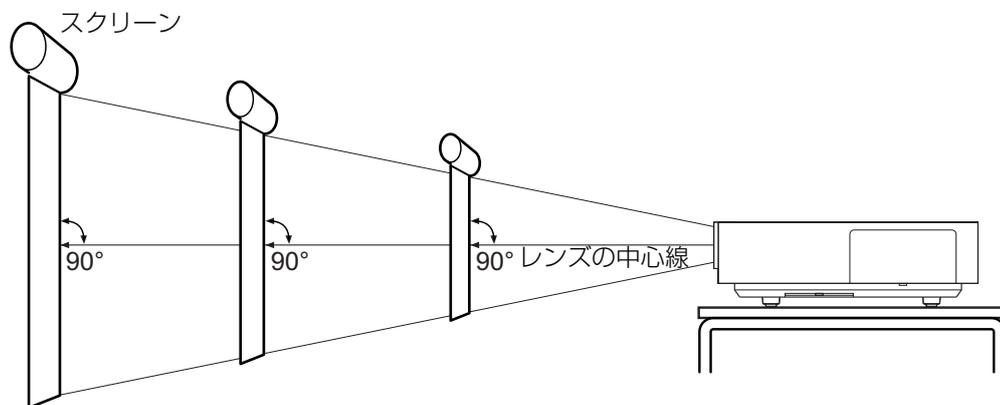
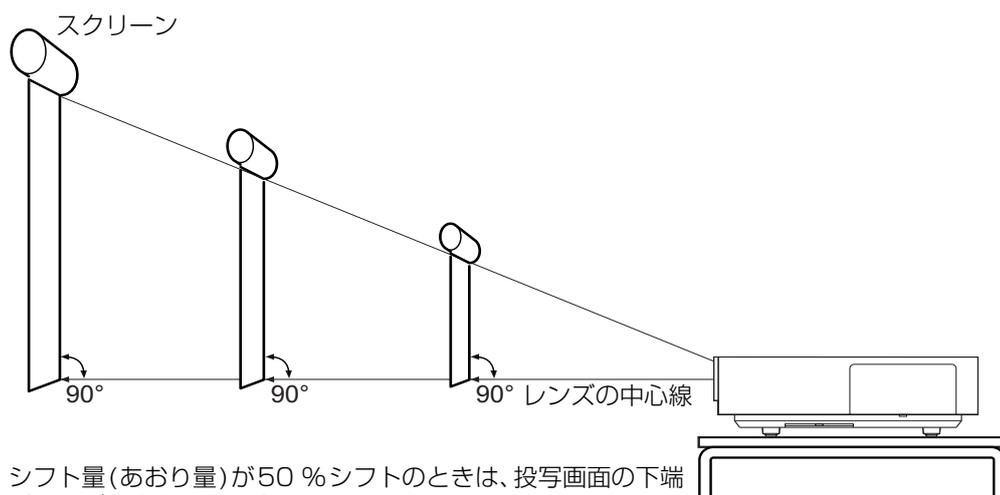
- 設置工事は専門の知識や技術が必要です。設置工事（天井などへの取り付け）は必ず販売店（専門の技術者）にご依頼ください。
- 振動や衝撃の加わる様な場所には設置しないでください。
- ネジ穴の深さ（ネジ長さ）は 30 mm です。取り付け部分のネジは、長さ 30 mm 以下、19 mm 以上のネジをお使いください。
  30 mm 以上のネジを使用すると内部の部品などを破損して、故障の原因となることがあります。
- 万一、本製品や本製品の一部が落下しても安全な場所に設置してください。光源ランプが破損した場合、フィルターのメッシュより細かいガラス片が製品の外に出る場合があります。

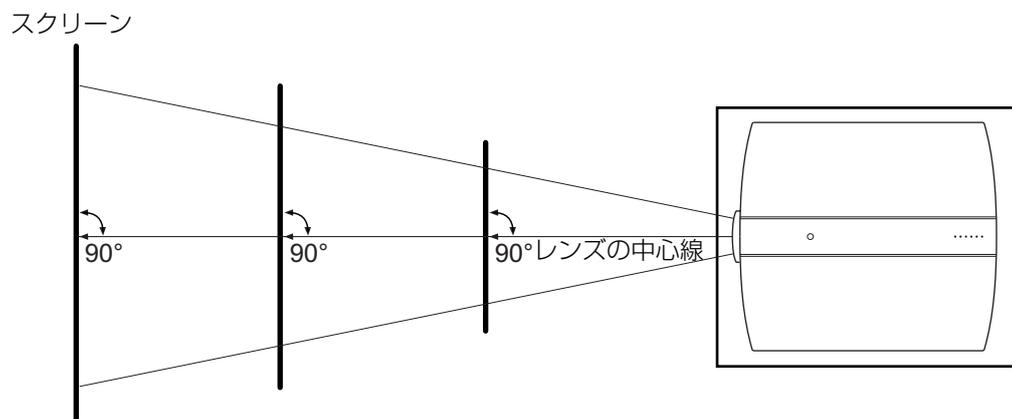
準備

プロジェクターとスクリーンの設置

プロジェクターのレンズ中心がスクリーンと直角になるように設置したときに、最適な映像になります。投写角度に注意して設置してください。直角になるように設置しないと、投写映像が台形に歪みます。

- 本機には、台形歪みを補正する機能や水平方向の傾きを調整する機能はありません。

左（または右）から見たとき

シフト量（あおり量）が０ %シフトのときは、投写画面の中心がレンズの中心と同じ高さになるように設置します。

シフト量（あおり量）が50 %シフトのときは、投写画面の下端がレンズの中心と同じ高さになるように設置します。

上（または下）から見たとき

画面サイズと投写距離

お好みの画面サイズになるように、レンズからスクリーンまでの距離を決めます。

■DLA-HD10KS

DLA-HD10KS の投写レンズは 1.4 倍電動ズームレンズですので、最大拡大時は最小時の約 1.4 倍のサイズで投写できます。

■DLA-HD10K

DLA-HD10K の投写レンズは 1.9 倍電動ズームレンズですので、最大拡大時は最小時の約 1.9 倍のサイズで投写できます。

投写画面サイズと投写距離の関係表

投写画面サイズ アスペクト比 16:9	DLA-HD10KS（1.4 倍ズームレンズ）	DLA-HD10K（1.9 倍ズームレンズ）
	おおよその投写距離	おおよその投写距離
	W（ワイド端）～ T（テレ端）	W（ワイド端）～ T（テレ端）
60型（約152.4 cm）	（約1.96 m） ～ （約2.77 m）	（約2.58 m） ～ （約4.94 m）
70型（約177.8 cm）	（約2.29 m） ～ （約3.23 m）	（約3.02 m） ～ （約5.78 m）
80型（約203.2 cm）	（約2.63 m） ～ （約3.70 m）	（約3.46 m） ～ （約6.62 m）
90型（約228.6 cm）	（約2.96 m） ～ （約4.17 m）	（約3.90 m） ～ （約7.46 m）
100型（約254.0 cm）	（約3.29 m） ～ （約4.64 m）	（約4.34 m） ～ （約8.30 m）
110型（約279.4 cm）	（約3.63 m） ～ （約5.11 m）	（約4.79 m） ～ （約9.14 m）
120型（約304.8 cm）	（約3.96 m） ～ （約5.57 m）	（約5.23 m） ～ （約9.98 m）
130型（約330.2 cm）	（約4.29 m） ～ （約6.04 m）	（約5.67 m） ～ （約10.82 m）
140型（約355.6 cm）	（約4.63 m） ～ （約6.51 m）	（約6.11 m） ～ （約11.65 m）
150型（約381.0 cm）	（約4.96 m） ～ （約6.98 m）	（約6.55 m） ～ （約12.49 m）
160型（約406.4 cm）	（約5.30 m） ～ （約7.45 m）	（約6.99 m） ～ （約13.33 m）
170型（約431.8 cm）	（約5.63 m） ～ （約7.91 m）	（約7.43 m） ～ （約14.17 m）
180型（約457.2 cm）	（約5.96 m） ～ （約8.38 m）	（約7.88 m） ～ （約15.01 m）
190型（約482.6 cm）	（約6.30 m） ～ （約8.85 m）	（約8.32 m） —
200型（約508.0 cm）	（約6.63 m） ～ （約9.32 m）	（約8.76 m） —

● 上記表の投写画面サイズ（推奨）と投写距離は、あくまでも目安です。設置するときの参考としてご覧ください。レンズの製造公差などにより、投写サイズが異なることがあります。

● 設置調整される際は、アスペクト比 16：9 の投写映像をご使用ください。

レンズシフトの設定

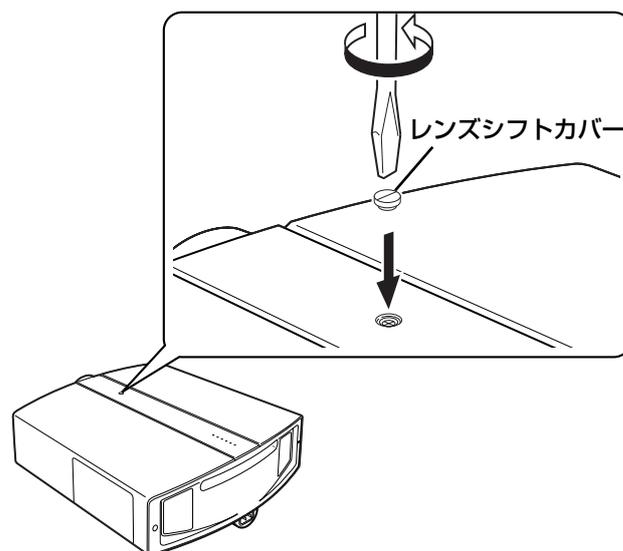
本機は投写画面位置を上下方向に動かすことができるレンズシフト機能を搭載しています。設置状態などにより、必要に応じて調整してください。

- シフト量は 0 %から約 60 %です。工場出荷時は 50 %シフトに設定されています。
- ギアのあそびにより、投写画面の位置がずれる場合があります。
- レンズシフトの設定（調整）後は、レンズシフトカバーを本体に取り付けてください。

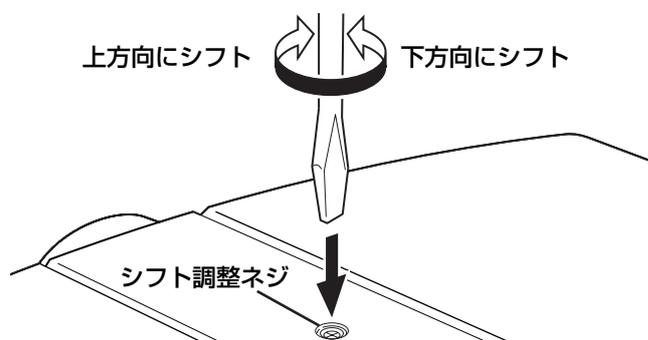
1 スクリーンに映像を投写します

- 投写方法については、『基本操作』(☞24ページ) をご覧ください。

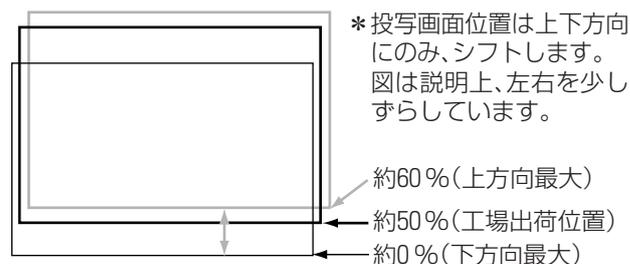
2 レンズシフトカバーをはずします

- レンズシフトカバーを ⊖ ドライバーなどで本体からはずします。

3 投写画面位置を調整します

- シフト調整ネジを⊖ドライバーなどで回し、調整します。

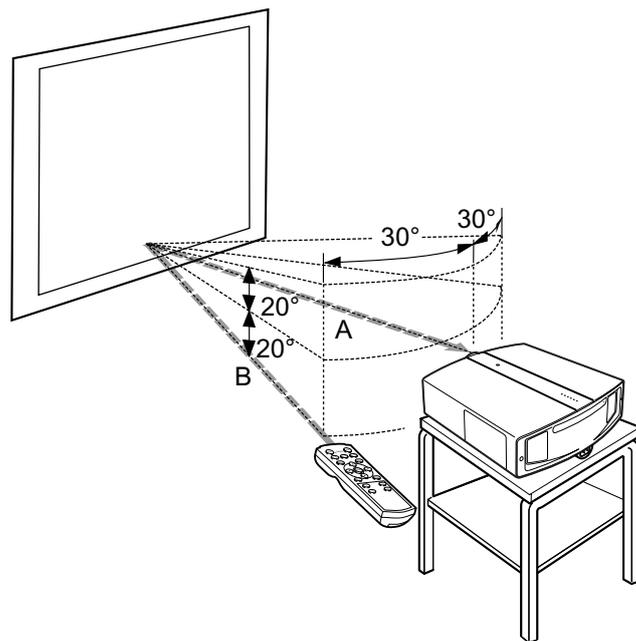
右に回す：画面が上方向にシフトします。
左に回す：画面が下方向にシフトします。

4 レンズシフトカバーを取り付けます

- レンズシフトカバーを ⊖ ドライバーなどで本体に取り付けます。

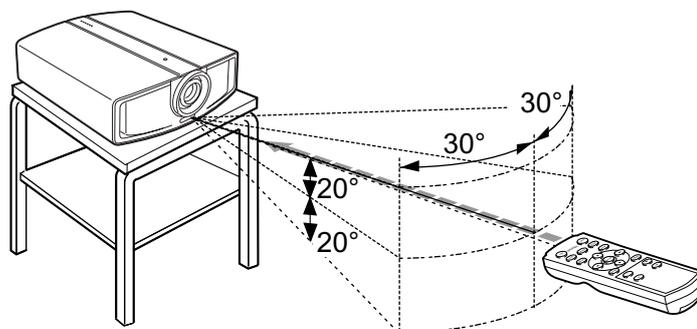
■シフト量による投写画面位置イメージ

リモコンの操作範囲

リモコンの操作可能な距離は直接受信で約 7 m です。また、スクリーンなどで反射させて使用することもできます。
- 蛍光灯が点灯していると、リモコンが正常に働かない場合があります。

スクリーンなどで反射させて使うとき

本体とスクリーンの距離 A と、リモコンとスクリーンの距離 B の合計が約 7 m 以内になるようにしてください。
- ご使用になるスクリーンの種類によって、リモコン信号の反射する効率が異なるため、操作できる距離が短くなることがあります。

直接本体に向けて使うとき

直接本体の受光部に向かって操作するときは、本体前面、背面の受光部に対して 7 m 以内でお使いください。
- 操作できないときは、近づけて操作してください。
- 背面のリモコン受光部の場所については、10 ページをご覧ください。

準備

接続について

機器との接続

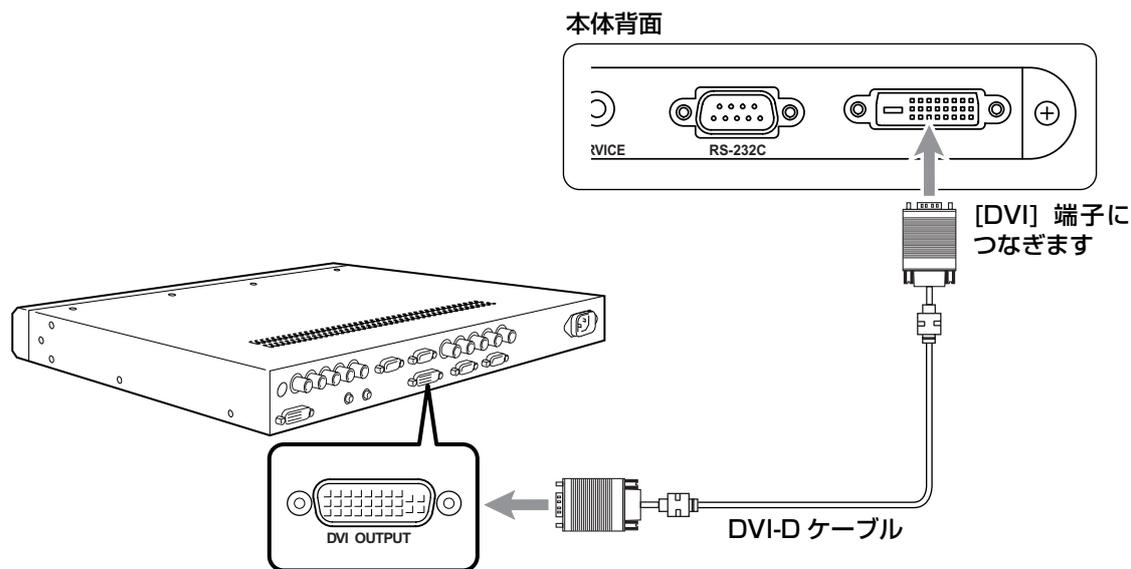
接続を始める前に、必ずプロジェクターと接続する機器の電源を切ってください。

● 接続する機器の取扱説明書をよくお読みください。

機器との接続

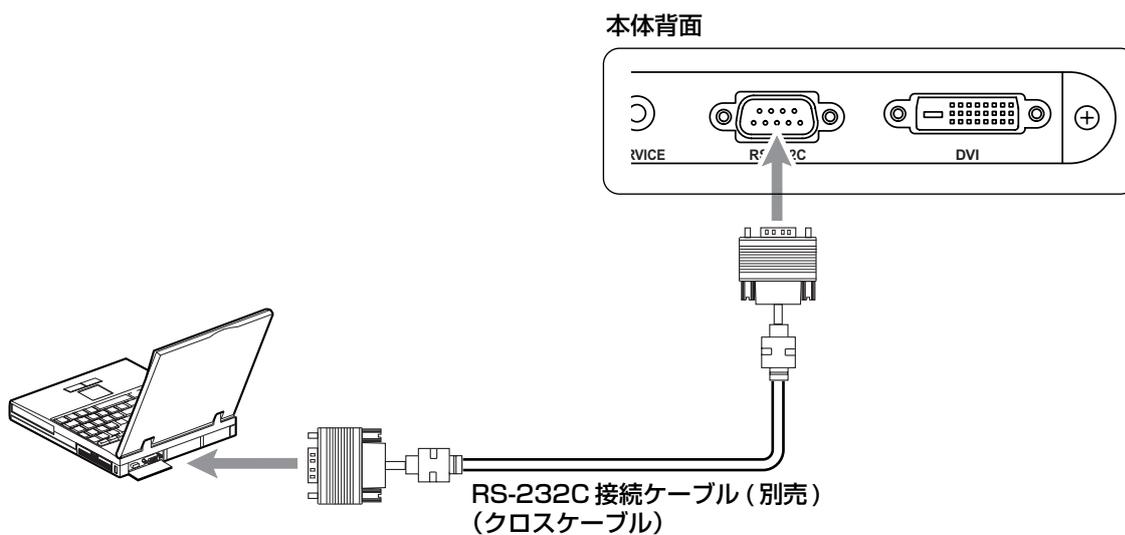
● お使いになる DVI-D ケーブルによっては信号が減衰し、映像が不安定になることがあります。

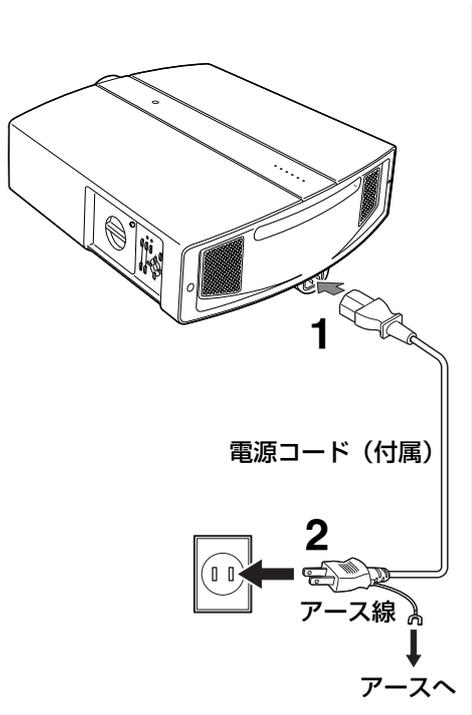
● 5 m 以上の DVI-D ケーブルを使用する場合は、分配システムや光ファイバーケーブルの使用を推奨します。

● 本機に入力可能な映像信号は DVI-D の 1080/50p、1080/60p 信号です。

外部機器からコントロールする

コンピューター機器を本機背面の [RS-232C] 端子に接続して、本機をコントロールすることができます。

● 必要に応じて接続用のケーブルをお求めください。

● 詳しくはお買上げの販売店、またはお近くのビクターサービス窓口にご相談ください。

電源コード(付属)の接続

電源コードをコンセントに差し込む前に、機器の接続が済んでいることを確認してください。

1 本体の電源入力端子に、付属の電源コードを接続します

2 アース線を建物に備えられているアース端子に接続し、付属の電源コードのプラグを壁のコンセントに差し込みます

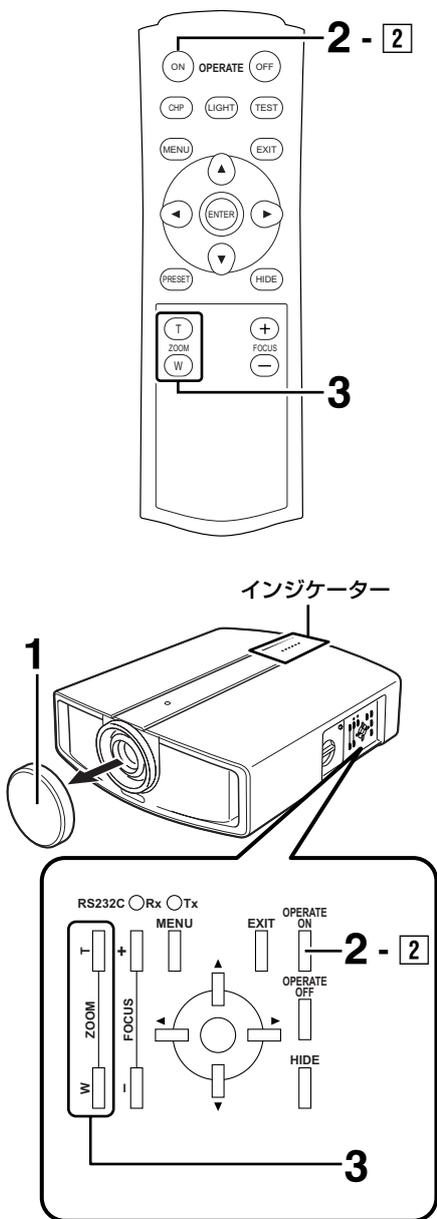
アース線の接続は、必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前に行なってください。また、アース線の接続をはずす場合は、必ず電源プラグをコンセントからはずして行なってください。

火災・感電防止の注意

注意

- 本機は消費電力が大きいため、壁のコンセントへ直接接続してください。
- 機器を使用しないときは、機器の電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 付属の電源コード以外で接続しないでください。
- 表示された電源電圧以外で使用しないでください。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損します。
- ぬれた手でプラグを抜き差ししないでください。

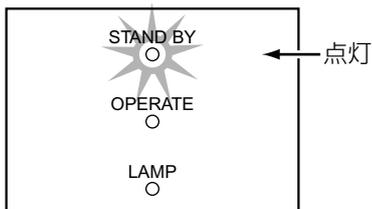
基本操作

本機の設定が終了していないときは、電源を入れたのち『メニューで行う調整と設定』(☞26 ページ)をご覧になり、必要な設定を先に行なってください。一度、基本的な設定を行えば、通常は以下の操作をするだけで、本機をお使いになれます。

1 レンズキャップをはずします

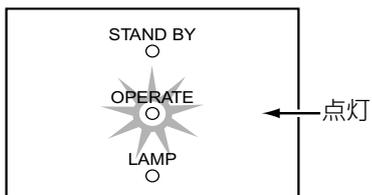
- 使用後は、レンズの汚れ防止のためにレンズキャップを取り付けてください。

2 電源を入れます

1 電源プラグをコンセントに差し込みます

- 主電源が入り、本体の[STAND BY]インジケーターが点灯します。

本体：インジケーター

2 [OPERATE ON] ボタンを 1 秒以上押します

- 本体の [OPERATE] インジケーターが点灯し、投写画面が徐々に現れます。

本体：インジケーター

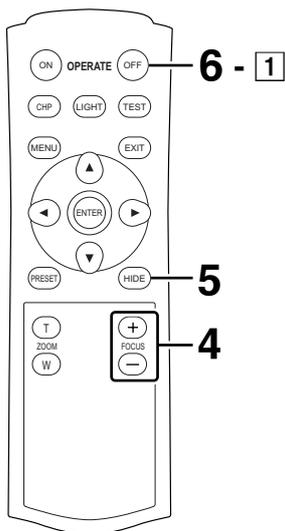
お知らせ

- 投写開始の直後は、数秒間映像が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 光源ランプ点灯後、ランプは徐々に明るくなります。ランプの明るさなどが安定するには 1 分以上時間がかかります。

3 ズーム(画面サイズ)を調整します

画面サイズを大きくするには、[ZOOM T] ボタンを押します
画面サイズを小さくするには、[ZOOM W] ボタンを押します

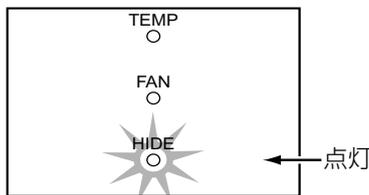
お知らせ

- ズーム、フォーカス調整をするときは、「Options」メニューの「Zoom/Focus」を「Unlock」に設定してください(初期値：「Unlock」)。
- 「Lock」に設定されている場合、[ZOOM T/W]または[FOCUS +/–]ボタンを押すと、操作無効を示す「not available」のメッセージが表示されます。

4 フォーカス(焦点)を調整します

焦点を手前に送るには、[FOCUS +] ボタンを押します
焦点を後方へ送るには、[FOCUS –] ボタンを押します

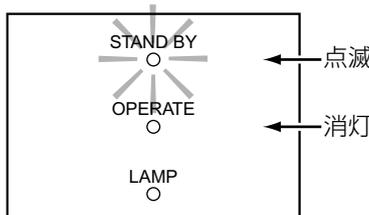
5 映像を一時的に消します

[HIDE] ボタンを押します

- 映像が消えます。
- 映像を再び出すときは、もう一度[HIDE]ボタンを押します。

本体：インジケーター

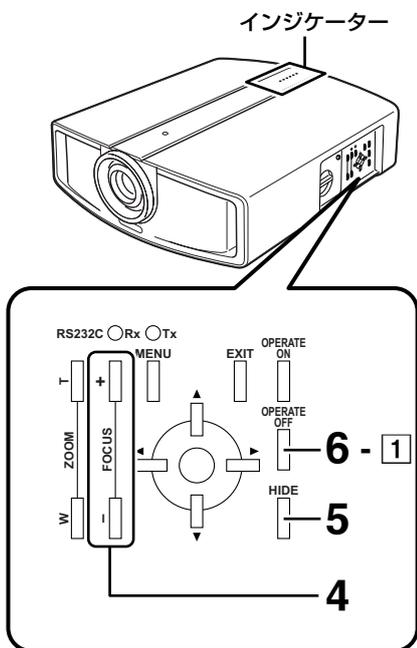
6 電源を切ります

1 [OPERATE OFF] ボタンを 1 秒以上押します

- [OPERATE]インジケーターが消え、[STAND BY]インジケーターが点滅し始め、クールダウンモードになります。クールダウンモードは光源ランプの温度を下げるため、約60秒間続きます。(☞13ページ)
- クールダウンモードが終了すると、スタンバイモードになります。

本体：インジケーター

お知らせ
光源ランプ点灯後の約1分間、[OPERATE OFF]ボタンは働きません。1分以上経過してから操作してください。

2 電源プラグをコンセントから抜きます

お願い
[STAND BY]インジケーターが点滅中は電源プラグを抜かないでください。ランプの寿命が短くなったり、故障の原因となることがあります。

お使いになるときの注意

注意

本機は投写中に高温になる光源ランプを使用しています。ご使用になるときには、次のような投写はおやめください。火災や故障の原因となることがあります。

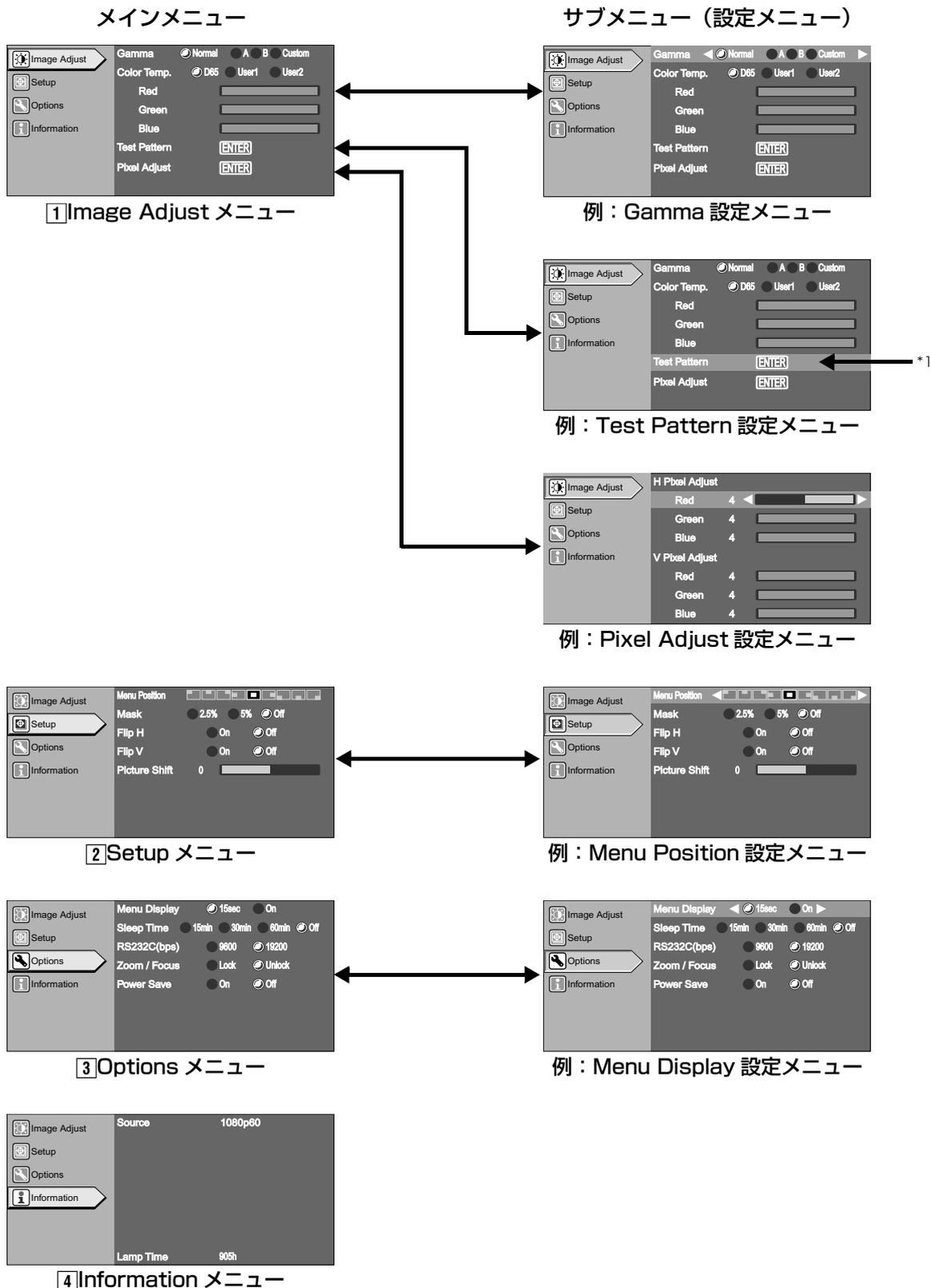
- 横倒しでの投写
- むりな設置角度での投写
  本機を傾けてお使いになることは避けてください。色むらやランプの寿命を損ねる原因となることがあります。
- 吸気口、排気口をふさぐような場所での投写
- レンズキャップを付けたままの投写

操作

メニューで行う調整と設定

スクリーンに表示されるメニューで本機の調整や設定を行います。

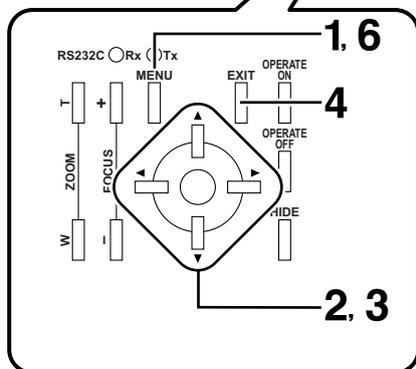
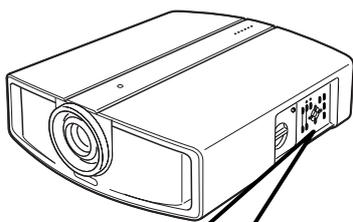
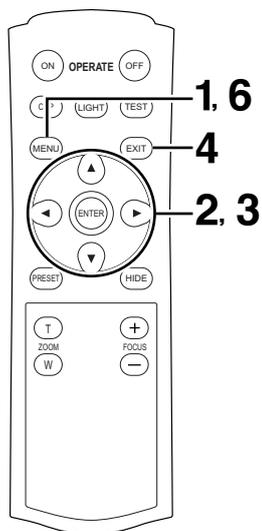
メニューの階層と構成

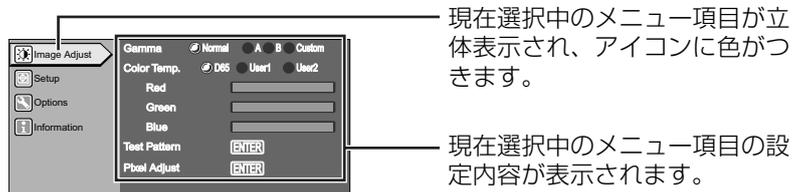
本機のメニューは次のようになっています。また画面表示の文字は英語のみになります。

*1 [ENTER]ボタンを押すと、テストパターンの投写映像に切り換わります。テストパターンは10種類あり、[ENTER]ボタンまたは [TEST] ボタンで投写するテストパターンを変更します。[EXIT] ボタンを押すとメニュー画面が消えます。もう一度 [EXIT] ボタンを押すとテストパターンが消えます。

メニュー操作のボタン

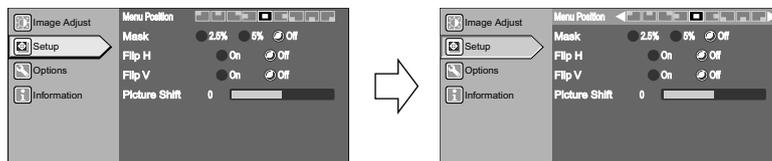
メニューは、本体またはリモコンのボタンを使って操作します。

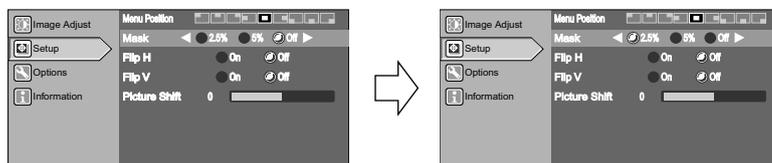
ボタン		機能
リモコン	本体	
MENU	MENU	メインメニューを表示します。 ● メニュー表示中は、メニュー画面を消します。
ENTER		メインメニュー上の選択した項目を確定します。 ● 「Test Pattern」の項目で[ENTER]ボタンを押すと、スクリーンにテストパターンが投写されます。投写後、[ENTER] ボタンを押すごとにテストパターンが変更されます。 ● 「Pixel Adjust」 の項目で [ENTER]ボタンを押すと、「H Pixel Adjust」、「V Pixel Adjust」 の設定画面に移行します。
EXIT	EXIT	ひとつ前のメニュー画面に戻ります。 ● メインメニュー画面表示中は、メニュー画面を消します。 ● テストパターンおよびグリーンクロスハッチ信号を表示中は、表示信号を消します。
ENTER リモコン 本体		▲/▼：メニュー項目、設定項目を選びます。 ◀/▶：選んだ設定項目の設定値を変更します（一部機能しない項目があります）。 設定した値は、すぐに映像に反映されます。

メニュー操作の手順

1 [MENU] ボタンを押します

- スクリーンにメインメニュー画面が表示されます。

例：Image Adjustメニュー

2 [▲/▼] ボタンを押してメインメニューの項目を選び、[ENTER] ボタンを押して確定します

- 「Information」メニューは、設定メニュー（サブメニュー）がありません。

例：Setupメニュー　　例：Menu Position設定メニュー

3 [▲/▼]ボタンを押して設定する項目を選び、[◀/▶]ボタンを押して設定値を変更します

例：「Mask」の値を「Off」→「2.5%」に変更した場合

お知らせ

- 「Image Adjust」メニューの「Test Pattern」は選択後、[ENTER]ボタンを押します。押すとテストパターンが投写されます。
  [EXIT]ボタンを押すとメニュー画面が消えます。もう一度[EXIT]ボタンを押すとテストパターンが消えます。
- 「Image Adjust」メニューの「Pixel Adjust」は選択後、[ENTER]ボタンを押します。押すと「Pixel Adjust」のサブメニュー画面が表示されます。

4 設定が終了したら、[EXIT] ボタンを押します

- 押すごとに、一つ前のメニュー画面に戻ります。

5 手順 2 から 4 をくり返し、他の項目を設定します

6 設定がすべて終了したら、[MENU] ボタンを押します

- スクリーンからメニュー画面が消えます。

メニューの内容

1 Image Adjust メニュー

画質の調整をします。

Gamma

映像の階調特性を切り換えます。ご覧になるコンテンツに合わせてお好みの設定値を選んでください。

設定値 : Normal/A/B/Custom
初期値 : Normal

お知らせ

「Custom」に設定した場合、ガンマ調整ソフトウェアーを使用してプロジェクターとつないだパソコンから、ガンマ値をお好みの値に設定（調整）することができます。（工場出荷時は「Normal」と同じ画質です）

下記のホームページより、ガンマ調整用ソフトウェアーをダウンロードしてください。

http://www.jvc-victor.co.jp/

Color Temp.

投写している映像の色温度を調整します。

設定値 : D65/User1/User2
初期値 : D65

Red/Green/Blue

設定値 : − 255 ～ 0
初期値 : 0

- 「Color Temp.」の設定を「User1」または「User2」にしたとき、「Red/Green/Blue」の調整ができます。

Test Pattern

フォーカス（焦点）、画面サイズ、画質などを調整するときに使用します。テストパターンは 10 種類あり、[ENTER] ボタンまたは[TEST]ボタンで投写するテストパターンを変更します。
[EXIT] ボタンを 2 回押すと、テストパターンは消えます。

Pixel Adjust

映像の水平方向／垂直方向の位置ずれを微調整します。

- 通常は調整する必要はありません。

H Pixel Adjust

Red/Green/Blue

設定値 : 1 ～ 7
初期値 : 4

V Pixel Adjust

Red/Green/Blue

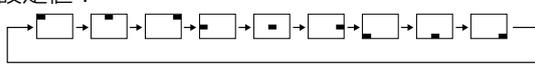
設定値 : 1 ～ 7
初期値 : 4

お知らせ

「H/V Pixel Adjust」では、Red、Green、Blue 毎に 1 ピクセル単位で最大±３ピクセル、映像を水平／垂直方向に微調整できます。調整するときは、輪郭のはっきりした静止映像で行なってください。映像によっては微調整のため、調整の効果が判りづらい場合があります。

2 Setup メニュー

Menu Position

メニュー画面の表示位置を調整します。

設定値 :
初期値 :

Mask

投写映像の外側部分を黒くマスク（隠す）します。

設定値 : 2.5%/5%/Off
初期値 : Off

Flip H

映像の左右を反転します。

設定値 : On/Off
初期値 : Off

Flip V

映像の上下を反転します。

設定値 : On/Off
初期値 : Off

Picture Shift

上下に黒帯のある映像（シネマ映像）を投写したとき、映像のみを上下に移動し、黒帯を上側または下側のみにします。

設定値 : − 30 ～ 30
初期値 : 0

3 Options メニュー

Menu Display
メニュー画面の表示時間を設定します。

設定値 : 15sec/On
初期値 : 15sec

- 「On」に設定すると、メニュー画面の表示は自動で消えません。[EXIT] ボタンを押してメニュー画面を消します。

Sleep Time
入力信号がないとき、自動的にスタンバイ状態になる時間を設定します。

設定値 : 15min/30min/60min/Off
初期値 : Off

RS232C(bps)
RS-232C 端子を使って、コンピューターと通信するときの通信速度（信号転送スピード）を設定します。お使いになるコンピューターと同じ速度に設定してください。

設定値 : 9600/19200
初期値 : 19200

Zoom/Focus
投写レンズの電動ズーム／電動フォーカスのロックとロック解除の設定をします。

設定値 : Lock/Unlock
初期値 : Unlock

Power Save
光源ランプの電力（明るさ）を切り換えます。

設定値 : On/Off
初期値 : Off

- 「On」に設定した場合、光源ランプの電力（明るさ）を下げることができますが、「Off」に設定したときよりも映像が暗くなります。
- 設定を変更すると、約 1 分間、設定を変更することはできません。設定を変更する場合、1 分以上経過してから操作してください。
- 「On」／「Off」の設定で、光源ランプの使用可能時間（寿命）は変わりません。

4 Information メニュー

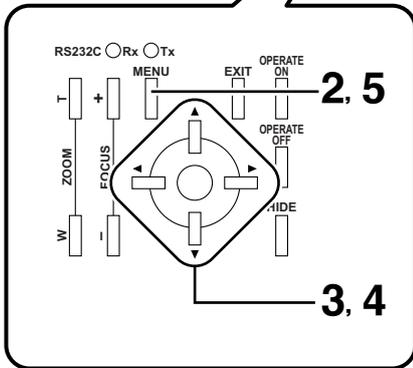
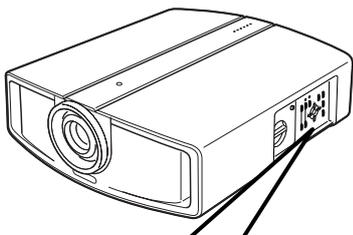
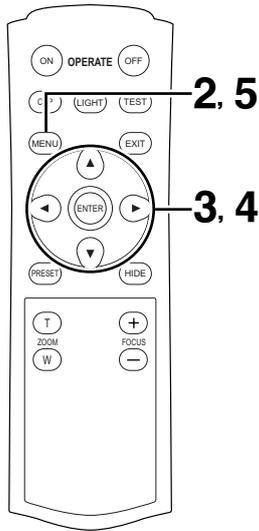
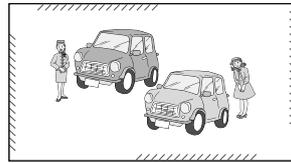
Lamp Time
光源ランプを使用した累積時間を表示します。

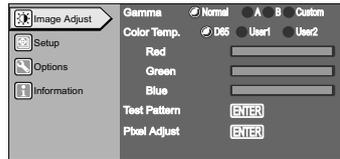
Source
本機の [DVI] 端子に入力された映像信号を自動判別し、信号名（「1080p50」または「1080p60」）を表示します。

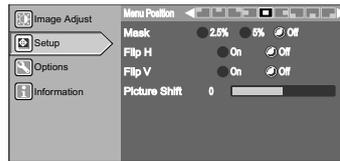
- [DVI] 端子に映像信号を入力していないときや、本機で使用できない映像信号を入力したときは、信号名は表示されません。

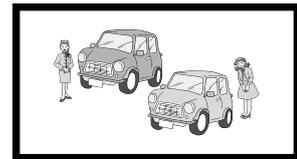
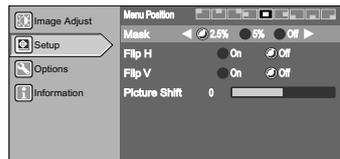
お知らせ
- 入力されている映像信号が切り換わるときに約２秒間、ブルーバックの映像になります。
- [DVI] 端子に何も接続されていないときや、映像信号がない場合、「No Signal DVI-D」のメッセージが投写されます。
- 本機で使用できない映像信号の場合、「Out of Range」のメッセージが投写されます。
- 本機で使用できる映像入力信号は、DVI-D による 1080/50p、1080/60p 信号です。

画面マスクの設定

外側部分の画質が劣化している映像を投写する場合、映像の外側部分を黒くマスク（隠す）して投写することができます。

1 スクリーンに映像を投写します

2 [MENU] ボタンを押します

- スクリーンにメインメニューが表示されます。

3 [▲/▼] ボタンを押して「Setup」を選び、[ENTER] ボタンを押します

- 「Setup」メニューの設定項目が画面右側に表示されます。

4 [▲/▼] ボタンを押して「Mask」を選び、[◀/▶] ボタンを押して設定値を選びます

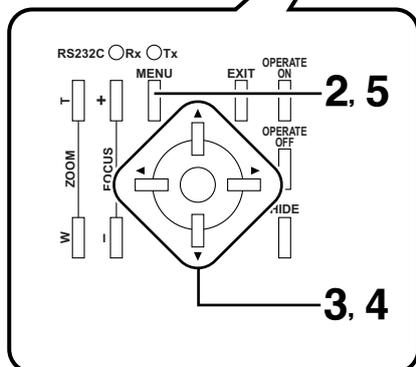
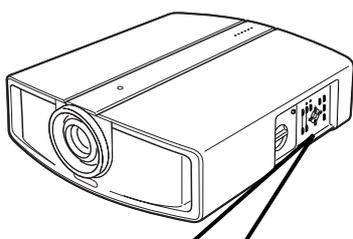
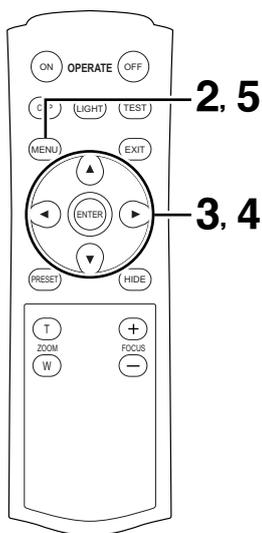
- 投写映像の外側が黒くマスク（隠す）されます。

例：「Mask」の値を「Off」→「2.5%」に変更した場合

5 [MENU] ボタンを押して終了します

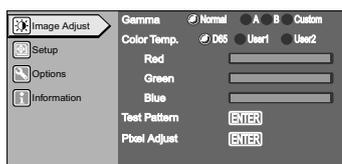
- スクリーンからメニュー画面が消えます。

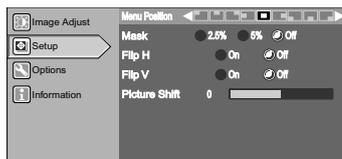
操作

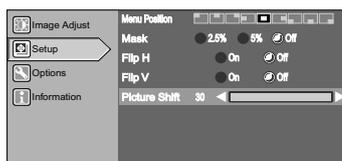
ピクチャーシフトの設定

上下に黒帯のある映像（シネマ映像）を投写したとき、映像のみを上下に移動させ、黒帯を上側または下側のみにすることができます。

1 スクリーンに映像を投写します

2 [MENU] ボタンを押します

- スクリーンにメインメニュー画面が表示されます。

3 [▲/▼] ボタンを押して「Setup」を選び、[ENTER] ボタンを押します

- 「Setup」メニューの設定項目が画面右側に表示されます。

4 [▲/▼] ボタンを押して「Picture Shift」を選び、[◀/▶] ボタンを押して映像を上または下に移動します

- 設定値をプラス方向に変えると映像は上側に移動し、マイナス方向に変えると映像は下側に移動します。

例：「Picture Shift」の値を「0」→「30」に変更した場合

5 [MENU] ボタンを押して終了します

- スクリーンからメニュー画面が消えます。

ランプ交換のしかた

光源ランプとランプ使用時間について

本機に使用している光源ランプの使用可能時間は約 2000 時間です。

- 光源ランプの使用可能時間は、平均的な光源ランプの使用可能時間であり、この時間を保証するものではありません。
  使用条件によっては、2000 時間に満たないで使用できなくなることもあります。
  光源ランプの使用可能時間が少なくなると、光源ランプは急激に劣化します。1900 時間を超えたら新しいランプ（ランプユニット）を準備するか、新しい光源ランプと交換してください。また使用条件によっては光源ランプの交換時期が早くなることがあります。映像が暗く色合いがおかしい場合は、早めに新しい光源ランプと交換してください。
- 現在の光源ランプの使用時間を確認することができます。「Information」メニューの「Lamp Time」をご覧ください。
  (☞26、30 ページ)
- 「Options」メニューの「Power Save」の設定を「On」にしても、光源ランプの使用可能時間は変わりません。
  (☞26、30 ページ)

交換ランプユニットの購入は、お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

■交換ランプ（ランプユニット）品番：　BHL5008-S

■ランプ使用時間が 1900 時間を超えると(1900 時間〜 2000 時間未満)

電源を入れる（スタンバイ状態）と、[LAMP] インジケーターが点灯し、[TEMP] インジケーターが点滅します。

投写を始めると、投写画面に「Lamp replacement」のメッセージを表示します。

- リモコンまたは本体のいずれかのボタンを押すと、メッセージが消えます。

■ランプ使用時間が 2000 時間を超えると(2000 時間〜 2010 時間未満)

電源を入れる（スタンバイ状態）と、[LAMP] インジケーターが点灯し、[FAN] インジケーターが点滅します。

投写中にランプ使用時間が 2000 時間を超えると、投写画面に「Lamp replacement」のメッセージを表示し、「Warning」の文字が点滅します。

- [EXIT] ボタンを押すと表示は消えます。ただし、1 時間経過すると、再び、「Warning」と「Lamp replacement」のメッセージが表示されます。
- ランプ使用時間が 2000 時間を超えてから、一度、スタンバイ状態にしたり、電源を切ったりしたときは、投写状態にすることができなくなります。新しいランプ（ランプユニット）に交換し、ランプ時間をリセット (☞36 ページ) してください。

■ランプ使用時間が 2010 時間になると

強制的に投写状態（動作状態）を解除し、クールダウンモードになります。

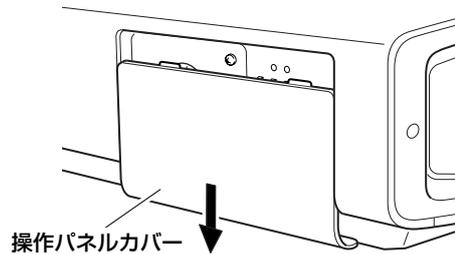
- [LAMP] インジケーターが点灯し、[TEMP] と [FAN] インジケーターが点滅します。
- 新しいランプ（ランプユニット）に交換し、ランプ時間をリセットしない限り、投写状態（動作状態）にすることはできません。

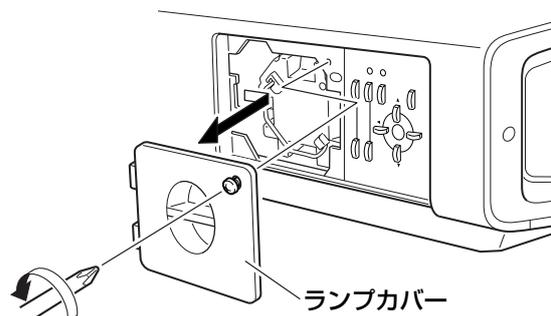
ランプ交換作業について

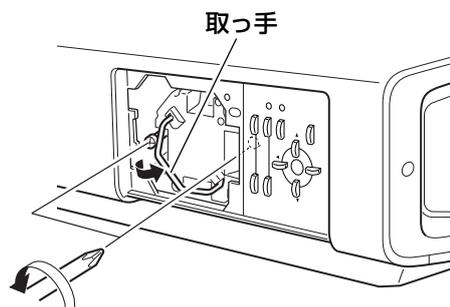
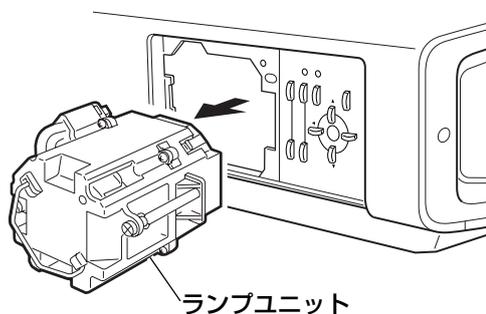
- 本体が作業しにくい場所に設置されている場合、そのままの状態で交換作業を行うと、けがの原因となります。作業をするのに十分な広さのある場所に本体を移動してから、交換してください。
- ランプユニットは純正品を使用してください。純正品以外を使用すると故障の原因となります。また、使用済みの古いランプユニットは絶対に使用しないでください。古いランプユニットを使用すると性能が著しく低下したり、ランプが破裂したりして、機器が故障する原因となります。また、その破片が外部に出てきたり、ランプユニット交換時のけがの原因となることがあります。
- ランプユニットの交換は、本機の使用直後には行わないでください。ランプユニットが高温になっていて、やけどの原因となることがあります。必ず一時間以上の冷却時間をおいてから交換作業を行なってください。
- ランプユニットの交換作業を行うときは、[STAND BY] インジケーターが点灯している状態で電源プラグをコンセントから抜いてください。電源プラグをコンセントに差しこんだまま作業をすると、けがや感電の原因となります。

ランプ交換の手順

1 操作パネルカバーをはずします

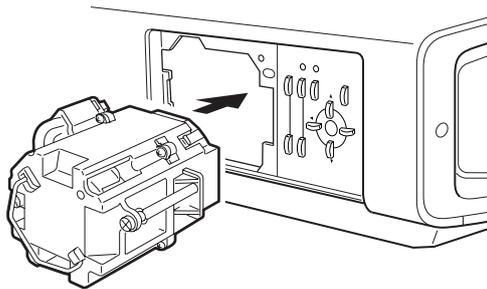
- 操作パネルカバーのはずしかたは、10 ページをご覧ください。

2 ネジをゆるめ、ランプカバーをはずします

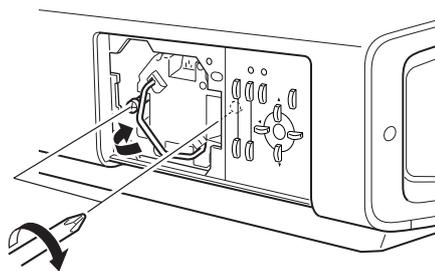
- ネジ（1本）を⊕ドライバーでゆるめます。

3 ランプユニットのネジをゆるめ、取っ手を引き起こします

- ネジ（2本）を⊕ドライバーでゆるめます。

4 ランプユニットを引き出します

5 新しいランプユニットを奥まで挿入します

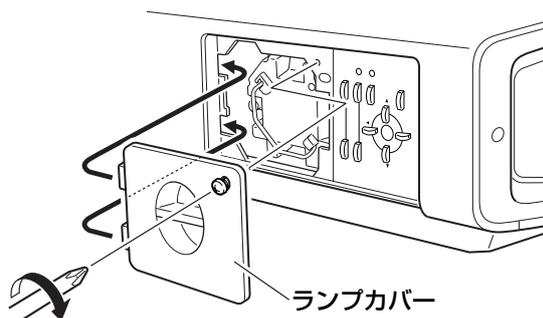
ランプユニット取扱上の注意

注意

ランプのガラス面に直接手でさわったり、汚したりしないでください。素手でさわると手の汚れがつき、ランプの寿命が短くなったり、画面が暗くなるなど性能が著しく低下したり、ランプが破裂したりして、故障の原因となることがあります。

6 ランプユニットのネジを締め、取っ手を倒して収納します

● ネジ（2本）を⊕ドライバーで締めます。

7 ランプカバーを取り付け、ネジを締めます

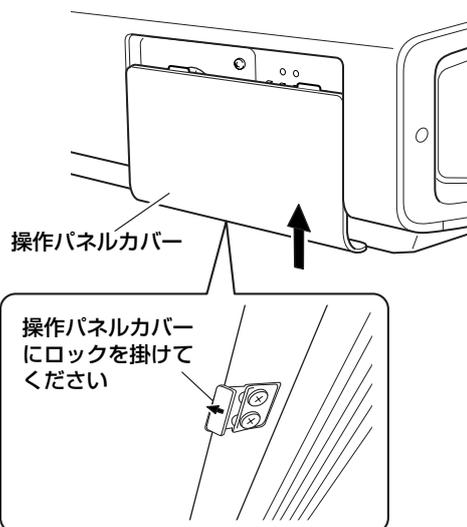
● ネジ（1本）を⊕ドライバーで締めます。

お知らせ
ランプカバーを取り付けるときは、ランプカバー左側の 2 カ所のツメを本体に差し込んでから、ランプカバー裏側の突起を、本体の穴に合うように取り付けてください。
この突起はスイッチになっていて、正しく取り付けられていないと電源が入りません。

8 操作パネルカバーを取り付けます

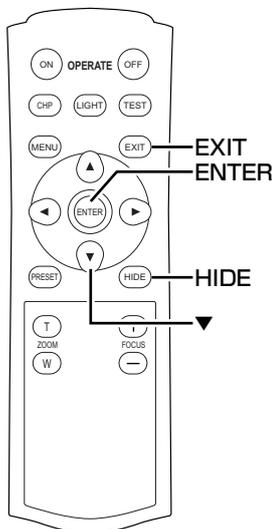
操作パネルカバー取扱上の注意

注意

● 本体と操作パネルカバーとの隙間が狭くなっています。本体と操作パネルカバーとの隙間に指などを挟まないように注意してください。
● 部品の突起や角でけがをしないように注意してください。
● 操作パネルカバーを本体に取り付けたあと、ロックが掛かっていることを確認してください。操作パネルカバーが落下してけがの原因となります。

お手入れ

ランプ時間のリセット

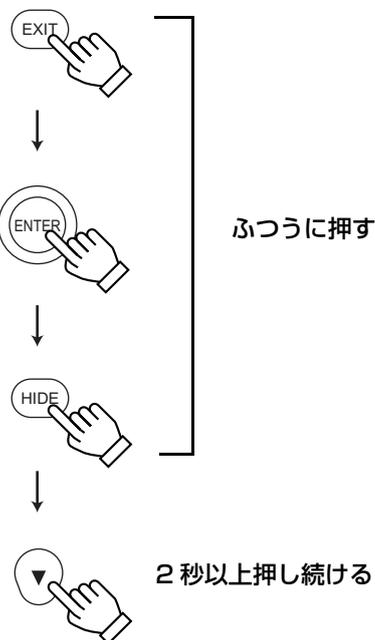
ランプ（ランプユニット）を交換したら、ランプ時間をリセットしてください。ランプ時間がリセットされて、新しいランプの使用時間が積算できるようになります。

- ランプの使用時間が 2000 時間になっていると、ランプ使用時間のリセットをしない限り、投写状態にすることができません（ランプが点灯しません）。

1 電源プラグをコンセントに差し込みます

- 主電源が入り、本体の[STAND BY]インジケーターが点灯します。

2 [EXIT]、[ENTER]、[HIDE] の順にボタンを押し、最後に [▼] ボタンを 2 秒以上押し続けます

- [STAND BY] インジケーターと [OPERATE] インジケーターが交互に約3秒間点滅します。点滅が終わるとランプ時間がリセットされ、スタンバイ状態に戻ります（[STAND BY] インジケーターが点灯します）。

2 秒以上押し続ける

ランプ使用時間のリセットを確認するには
「Information」メニューの「Lamp Time」で確認できます。
(☞26、30ページ)

リセット作業についての注意

注意

ランプ使用時間のリセットは、新しいランプに交換したときのみ、行なってください。
途中でのランプ使用時間のリセットは、絶対にしないでください。
交換時間の目安が不明となり、性能が著しく低下したり、ランプが破裂する原因となることがあります。

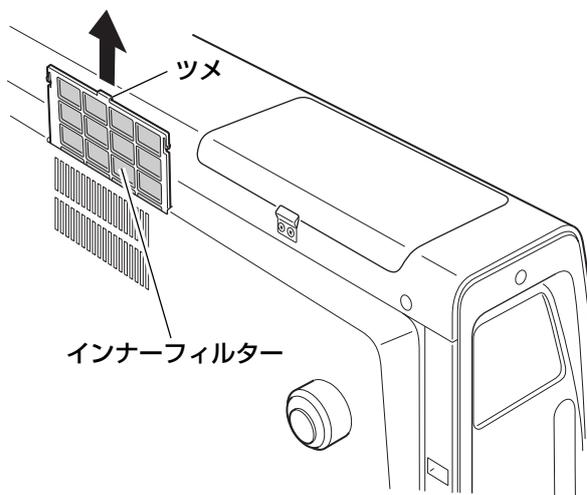
フィルターの掃除と交換方法

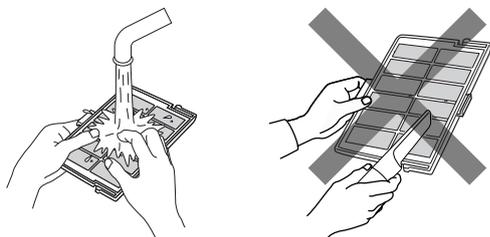
フィルターは定期的に掃除してください。吸気効率が悪化したりして、故障の原因となることがあります。また、汚れがひどく、きれいにならないときや、損傷したときは新しいフィルター（インナーフィルター：LC32058-002A）に交換してください。内部にゴミが入り画面上にその影が現れるなどして映像を楽しむことができなくなります。内部にゴミが入った場合や、フィルターについてはお買い上げの販売店、またはお近くのビクターサービス窓口にご相談ください。

1 電源プラグをコンセントから抜きます

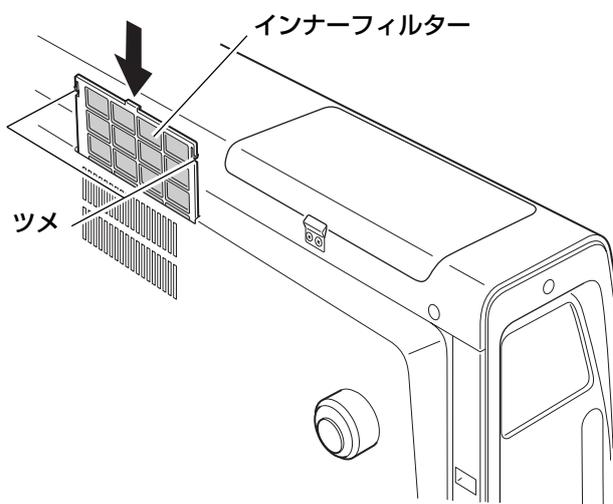
- [STAND BY] インジケーターが点灯している状態で電源プラグをコンセントから抜いてください。

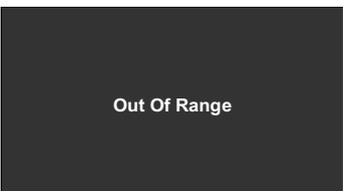
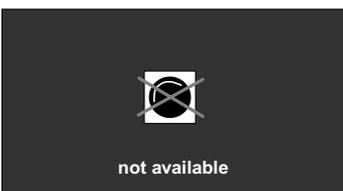
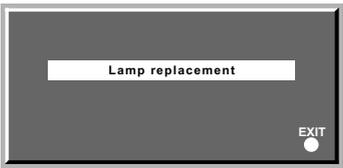
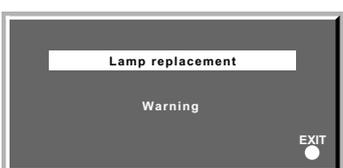
2 インナーフィルターをはずします

- インナーフィルター下部のツメを押し上げながら、持ち上げてはずします。

3 フィルターを掃除します

- フィルターを水洗いし、日陰で乾かしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤を使うことをおすすめします。

お願い
- 中性洗剤を使用するときは、ゴム手袋を着用してください。
- フィルターを水洗いしたときは、完全に乾いたことを確認してから、取り付けてください。ぬれたまま取り付けると感電や故障の原因となることがあります。
- インナーフィルターは掃除機などで掃除しないでください。フィルターは柔軟なために掃除機に吸い込まれたりして、フィルターを損傷する原因となることがあります。

4 インナーフィルターを取り付けます

- インナーフィルター左右２ヵ所のツメが、本体にロックされたことを確認してください。

こんなメッセージが表示されたら

メッセージ	原因（内容）
No Signal DVI-D	[DVI] 端子に何も接続されていないとき。 [DVI] 端子に DVI-D ケーブルが接続されているが、信号が無いとき。 →映像信号を入力してください。
Out Of Range	本機で使用できない映像信号が入力されたとき。 →1080/50p または 1080/60p の映像信号を入力してください。
not available	「Options」メニューの「Zoom/Focus」が「Lock」に設定されているときに、[ZOOM T/W] または [FOCUS +/–] ボタンを押したとき。 →「Options」メニューの「Zoom/Focus」を「Unlock」に設定してください。
Lamp replacement EXIT	ランプ使用時間が 1900 時間を過ぎた瞬間から「Lamp replacement」のメッセージが表示されます。 また、ランプ使用時間が 1900 時間を過ぎた後、2000 時間に達するまで、投写を開始するたびに 「Lamp replacement」のメッセージが表示されます。 ● リモコンまたは本体のいずれかのボタンを押すと、メッセージは消えます。 →新しいランプ（ランプユニット）を準備し、早めに交換してください。
Lamp replacement Warning EXIT	ランプ使用時間が 2000 時間を過ぎた瞬間から「Lamp replacement」のメッセージを表示し、同時に「Warning」の文字を点滅表示します。 表示は [EXIT] ボタンで消すことができます。ただし、表示を消した後でも、1 時間ごとに再び表示されます。 なお、2000 時間を過ぎた後、スタンバイ状態にしたり、電源を切ったりすると、投写状態にすることができなくなります。 また、2000 時間を過ぎてから連続投写したとき、2010 時間を過ぎた瞬間に強制的にクールダウンモードになり、投写することができなくなります。 →新しいランプ（ランプユニット）に交換し、ランプ使用時間をリセットしてください。(☞33~36 ページ)

ワーニングインジケーター表示

インジケーターの警告表示について

本機の投写中に異常が発生すると警告モードになり、本体上部のインジケーター表示の組合せで異常の内容を表示します。

● 本機は自動的に投写を中断して約 60 秒間冷却ファンを回します。

No.	インジケーター						警告内容
	STAND BY	OPERATE	LAMP	TEMP	FAN	HIDE	
1	―	―	点灯	点滅	―	点滅	ランプが点灯せずに投写できなかったとき
2	―	―	点灯	―	点滅	点滅	投写中にランプが消えたとき
3	―	―	―	―	点滅	点滅	回路動作が異常なとき（マイコン回路の動作異常）
4	―	―	―	点滅	―	点滅	回路動作が異常なとき（ドライブ回路の動作異常）
5	―	―	点灯	―	―	点滅	ランプカバーがはずれているとき
6	―	―	―	点灯	―	点滅	内部の温度が異常に高いとき（内部温度異常）
7	―	―	―	点灯	点滅	点滅	吸気口の温度が高いとき（外部温度異常）
8	―	―	―	―	点灯	点滅	内部のファンが停止したとき（ファンロック）

警告表示の対応について

本機を次の手順で操作してください。

● No.1 ～ 4 について

No.1　　: 再度、電源のオン／オフ操作を行なってください。
No.2　　: 動作中に衝撃を受けることがないか確認後、再度電源のオン／オフ操作を行なってください。
No.3、4 : 再度、電源のオン／オフ操作を行なってください。

● No.5 ～ 8 について

[STAND BY] インジケーターが点灯している状態で、電源プラグをコンセントから抜きます。その後、No.5 ～ No.8 を確認してください。

No.5 : ランプユニットが正しく本体に取り付けられていることを確認し、ランプカバーを正しく取り付けてください。その後、基本操作通りに立ち上げてください。
No.6 : 吸気口をふさぐようなものがないか確認し、内部が冷めるまでしばらくそのままにして置いてください。 その後、基本操作通りに立ち上げてください。
No.7 : 外部の温度を確認して、正常なら本機をしばらくそのままにして冷やしてください。その後、基本操作通りに立ち上げてください。
No.8 : 内部が冷めるまでしばらくそのままにして置いてください。その後、基本操作通りに立ち上げてください。

再度、警告モードになるときは、冷却ファンが停止した後、[STAND BY] インジケーターが点灯していることを確認し、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、お買い上げの販売店、またはお近くのビクターサービス窓口に修理を依頼してください。

故障かな？と思ったら

修理をご依頼される前に、次の点をお調べください。

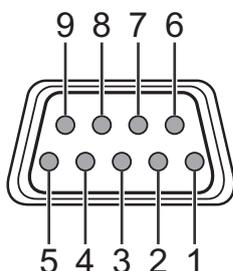
症状	原因	処置	参照ページ
電源が入らない	電源コードがはずれていませんか。	電源コード（プラグ）をしっかり差し込んでください。	23ページ
	ランプカバーを正しく閉めましたか。	[STAND BY] インジケーターが点灯している状態で電源プラグをはずし、ランプカバーを正しく閉め、再度電源プラグを差し込んでください。	25、35ページ
	ランプの寿命が過ぎていませんか（ランプ使用時間が2000時間に達していませんか）。	[STAND BY] インジケーターが点灯している状態で電源プラグをはずし、新しいランプ（ランプユニット）に交換してください。その後、電源プラグを差しこんでください。新しいランプ（ランプユニット）に交換したときはランプ使用時間をリセットしてください。	13、33～36ページ
投写映像が暗い	ランプの寿命が近づいていませんか。	メニューでランプ使用時間を確認してください。寿命が近いときは新しいランプ（ランプユニット）を準備するか、早めに交換してください。	13、33～36ページ
	設定メニューの「Power Save」が「On」になっていませんか。	「Power Save」の設定を「Off」にしてください。	30ページ
電源を入れて作動するが、数分後に切れてしまう	空気吸い込み口（吸気口）や排気口をふさいでいませんか。	[STAND BY] インジケーターが点灯している状態で電源プラグをはずし、ふさいでいるものを取り除いてください。その後、電源プラグを差し込んでください。	9、10、16ページ
	フィルターが汚れていませんか。	フィルターを清掃してください。	37ページ
映像が出ない	接続機器を正しく接続していますか。	接続機器を正しく接続してください。	22ページ
	レンズキャップをはずしましたか。	レンズキャップをはずしてください。	24ページ
	接続機器から正しい信号（1080/50pまたは1080/60p）が出ていますか。	接続機器を正しく設定してください。	22ページ
	[HIDE]（ハイド）ボタンを押して、映像を一時的に消していませんか。	[HIDE]（ハイド）ボタンを押して、映像を出してください。	25ページ
映像がぼやける	フォーカスはあっていますか。	フォーカスボタンでフォーカスを調整してください。	25ページ
	距離が近すぎていたり、遠すぎていませんか。	正しい距離に設置してください。	19ページ
映像が欠ける	画面マスクの設定をしていませんか。	「Setup」メニューの「Mask」設定を「Off」にしてください。	31ページ
	ピクチャーシフトの設定をしていませんか。	「Setup」メニューの「Picture Shift」の値を変えて、映像が欠けないようにしてください。	32ページ

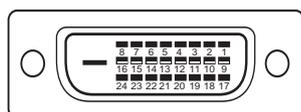
症状	原因	処置	参照ページ
リモコンが働かない	乾電池が正しく入っていますか。	乾電池の極性（⊕、⊖）を正しく合わせて入れてください。	15ページ
	乾電池が消耗していませんか。	新しい乾電池に交換してください。	15ページ
	リモコンとリモコン受光部との間に遮へい物はありませんか。	遮へい物を取り除いてください。	21ページ
	距離が離れすぎていませんか。	近づいて送信してください。	21ページ

- 本機はマイコンを使用した機器です。外部からの雑音やノイズにより正常に動作しないことがあります。そのようなときは一度電源を切って、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、あらためて電源プラグをコンセントに差し込んで、動作を確認してください（電源の入れかた、切りかたは 24、25 ページをご覧ください）。

端子説明

ピン配列

[RS-232C] 端子

ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	N/C	6	N/C
2	RD	7	N/C
3	TD	8	N/C
4	N/C	9	N/C
5	GND		

[DVI-D] 端子

ピン番号	信号名	ピン番号	信号名
1	TMDS データ2－	13	N/C
2	TMDS データ2+	14	TMDS +5V 電源
3	TMDS データ2/4 シールド	15	アース（+5V ）
4	N/C	16	ホットプラグ検出
5	N/C	17	TMDS データ0－
6	DDC クロック	18	TMDS データ0+
7	DDC データ	19	TMDS データ0/5 シールド
8	N/C	20	N/C
9	TMDS データ1－	21	N/C
10	TMDS データ1+	22	TMDS クロックシールド
11	TMDS データ1/3 シールド	23	TMDS クロック+
12	N/C	24	TMDS クロック－

TMDS = Transition Minimized Differential Signaling
DDC = Display Data Channel

RS-232C 外部制御について

コンピューターと本機を RS-232C クロスケーブル（D-sub 9 ピン）で接続すると、コンピューターから本機を制御することができます。ここでは制御に必要なコマンド構成と本機が返すデータフォーマットを説明しています。
詳しくは、お買い上げの販売店またはお近くのビクターサービス窓口にご相談ください。

1 通信仕様

本機の通信条件は次のとおりです。

ボーレート	9600/19200 bps
データ長	8 ビット
パリティ	なし
ストップビット	1 ビット
フロー制御	なし

2 コマンド構成

1 コマンドデータフォーマット

本機に制御コマンドを送信するときは、次のデータフォーマットで送信してください。

ヘッダー ID SP コマンド [SP パラメータ] CR

ヘッダー ：データの先頭および種類を表す。
「!」(21h) : プロジェクターへの指定（コマンド）
「?」(3Fh) : プロジェクターへの問い合わせ（アスキングコマンド）
ID ：「1」：プロジェクターの識別番号（工場出荷時は「1」）
SP ：ID、コマンド、パラメータの区切りを表す。(20h)
CR ：データの終端を表す。(0Dh)
* アスキングの場合、[ ] は不要

2 応答データフォーマット

本機が制御コマンドを実行した結果、コンピューターへ返すデータフォーマットです。

ヘッダー ID SP 正常終了ステータス SP パラメータ CR

ヘッダー ：データの先頭を表す。
「@」(40h) : プロジェクターからデータを取得
ID ：「1」：プロジェクターの識別番号（工場出荷時は「1」）
SP ：ID、コマンド、パラメータの区切りを表す。(20h)
正常終了ステータス ：「0」(30h)
CR ：データの終端を表す。(0Dh)

3 データフォーマットのパラメータ

コマンドデータと応答データに使用されるパラメータは、3 種類用意されています。
(1) 数値を表す　(2)ON/OFF　(3) 特殊パラメータ
それぞれのパラメータは次のとおりです。

(1) 数値を表す

符号付き 2 バイト 16 進数を、4 桁（バイト）のキャラクタで表す。
指定可能な範囲は「8000H」から「7FFFH」まで

(2)ON/OFF

POWER や HIDE などの状態（ON/OFF）を表す。

キャラクタ	hex	意味
「0」	30	OFF
「1」	31	ON

その他

(3) 特殊パラメータ

動作モードのパラメータ

キャラクタ	hex	意味
「0000」	30h 30h 30h 30h	スタンバイモード
「0001」	30h 30h 30h 31h	オペレートモード
「0002」	30h 30h 30h 32h	クールダウンモード
「0004」	30h 30h 30h 34h	エマージェンシーモード

3 外部制御コマンド表

機能名	コマンド	アスキング		データ種別		
		オペレートモード	ELSE	数値	ON/OFF	特殊データ
オペレート	U0F	×	×	×	○	×
HIDE	U00	○	×	×	○	×
左右反転	U17	○	×	×	○	×
上下反転	U18	○	×	×	○	×
動作モード	Z03	○	○	×	×	○

動作モード：アスキングのみ可能

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。保証期間は、お買い上げの日から１年間です。

光源ランプは消耗品のため、保証対象外です。

補修用性能部品の最低保有期間

プロジェクターの補修用性能部品の最低保有期間は製造打切り後、８年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

不明な点や修理に関するご相談

修理に関するご相談並びにご不明な点は、お買い上げの販売店または別紙の「ビクターサービス窓口案内」をご覧のうえ、最寄りのご相談窓口にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは

修理をご依頼になる前に、40、41 ページの「故障かな？と思ったら」にしたがって確認をしてください。それでも不具合や異常があるときは、電源を切り、電源プラグを抜いてからお買い上げの販売店にご連絡ください。

■保証期間中は

修理の際は保証書をご提示ください。

保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

■保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

■ご連絡していただきたい内容

品　名	D-ILA® ホームシアタープロジェクター
型　名	DLA-HD10K / DLA-HD10KS
お買い上げ日	年　　月　　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印等も合わせて
お　名　前	
電話番号	（　　　）　　　–
訪問ご希望日	

■修理料金のしくみ

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費が含まれています。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

便利メモ	お買い上げの販売店　　　　　　　　（　　　）　　　–

愛情点検　●**長年ご使用のプロジェクターの点検をぜひ！**　熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合により部品が劣化し、故障したり、時には安全性を損なって事故につながることもあります。

このような症状はありませんか	● 電源スイッチを入れても映像が出ない。 ● 上下、または左右の映像が欠けて映る。 ● 映像が時々、消えることがある。 ● 変なにおいがしたり、煙が出たりする。 ● 電源スイッチを切っても、映像が消えない。

→

ご使用を中　止	故障や事故防止のため、スイッチを切り、コンセントから電源プラグをはずして必ず販売店にご相談下さい。

ちょっとした心づかいでプロジェクターの安全

お客様の個人情報のお取り扱いについて

ご相談窓口におけるお客様の個人情報につきましては、日本ビクター株式会社およびビクターグループ関係会社（以下、当社）にて、下記のとおり、お取り扱いいたします。

- お客様の個人情報は、お問い合わせへの対応、修理およびその確認連絡に利用させていただきます。
- お客様の個人情報は、適切に管理し、当社が必要と判断する期間、保管させていただきます。
- 次の場合を除き、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。
  1. 上記利用目的のために、協力会社に業務委託する場合。当該協力会社に対しては、適切な管理と利用目的外の使用をさせない措置をとります。
  2. 法令に基づいて、司法、行政またはこれに類する機関から情報開示の要請を受けた場合。
- お客様の個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきましたご相談窓口にご連絡ください。

主な仕様

型名／品名	DLA-HD10K / DLA-HD10KS　D-ILA ホームシアタープロジェクター
発光方式	D-ILA 方式 [*1]（反射型アクティブマトリックス方式）
表示パネル／サイズ	D-ILA 素子 [*2] ／ 0.82 型（1920 画素 × 1080 画素）× 3 枚（総画素数：約 622 万画素）
投写レンズ	
DLA-HD10K	1.9 倍電動ズームレンズ（2.0：1 ～ 3.8：1）（ズーム･フォーカス：電動）
DLA-HD10KS	1.4 倍電動ズームレンズ（1.5：1 ～ 2.1：1）（ズーム･フォーカス：電動）
光源ランプ	200 W　超高圧水銀ランプ [型番：BHL5008-S]
対応画面サイズ	約 60 型 ～ 200 型（アスペクト比 16：9）
投写距離	
DLA-HD10K	約 2.5 m ～ 15 m
DLA-HD10KS	約 2 m ～ 10 m
入力信号	1080/60p 信号、 1080/50p 信号
解像度	1920 ドット × 1080 ドット
入力信号同期周波数	水平 56.25 kHz、67.43 kHz、67.5 kHz 垂直 50 Hz、59.94 Hz、60 Hz
入力端子	
VIDEO IN	DVI 1 系統、DVI-D（シングル -24pin）端子、HDCP 対応 [*3]
CONTROL	RS-232C 1 系統、D-sub 9 ピン × 1（外部コントロール） SERVICE 1 系統、直径 3.5 mm、ステレオミニジャック × 1（サービス用）
出力端子	
CONTROL	SCREEN TRIGGER 1 系統、直径 3.5 mm、モノラルミニジャック × 1
使用電源	交流 100 V、50 Hz･60 Hz
定格電流	3.5A　　（待機消費電力 5 W）
使用環境	温度＋ 5 ℃ ～ ＋ 35 ℃ 湿度 20 % ～ 80 %（非結露） （保存温度－ 10 ℃ ～ ＋ 60 ℃）
外形寸法 （横幅×高さ×奥行）	約 513 mm × 約 193.7 mm × 約 558.5 mm （レンズ、突起部除く）
質量	約 17 Kg
付属品	（8 ページをご覧ください。）

[*1] D-ILA 方式とは、Direct drive Image Light Amplifierの略です。

[*2] D-ILA 素子は非常に精度の高い技術でつくられており、99.99 %の有効画素がありますが、0.01 %以下の画素欠けや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

[*3] HDCP規格変更等によりDVI入力端子の映像が表示されないことがあります。

- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。
- このプロジェクターを使用できるのは日本国内のみで、外国では電源電圧が異なりますので使用できません。
  This projector is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.
- 写真や図は説明をわかりやすくするために、誇張･省略･合成をしています。実物とは多少異なりますのでご了承ください。
- 本機は「JIS C61000-3-2 適合品」です。

外形寸法（単位：mm）

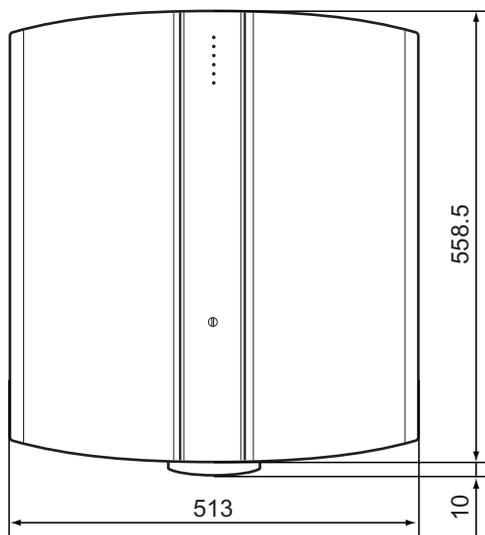
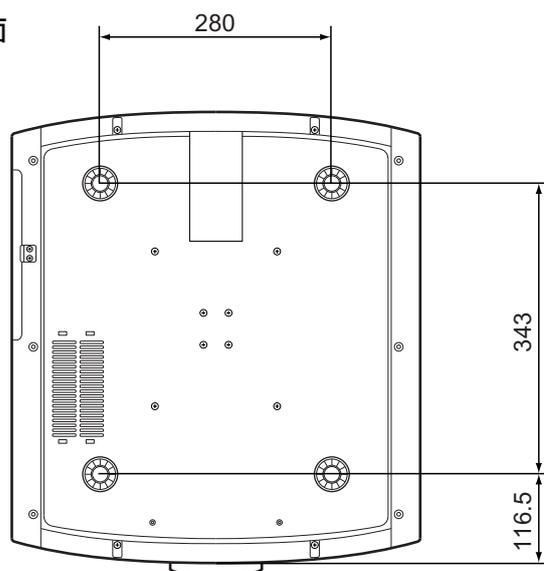
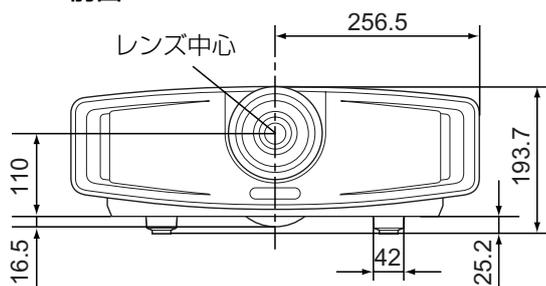
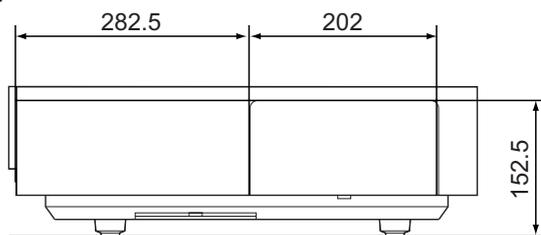
上面

底面

前面

側面

DLA-HD10K/DLA-HD10KS

D-ILA® ホームシアタープロジェクター　取扱説明書

ご相談や修理は

製品についてのご相談や修理のご依頼は、
お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合には、下記の相談窓口にご相談ください。
ご相談窓口におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、45ページをご覧ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談	お買い物情報や全般的なご相談
別紙の「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	お客様ご相談センター フリーダイヤル **0120-2828-17** 携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は 電話 (045)450-8950 FAX (045)450-2275 〒221-8528　横浜市神奈川区守屋町3-12

ビクターホームページ　http://www.victor.co.jp/

日本ビクター株式会社

ILA センター

〒 221-8528　横浜市神奈川区守屋町 3-12

Printed in Japan
1205-SW-VP